

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

下記以外にも冊子が添付されている場合がありますので、『はじめにお読みください』7.マニュアルの使用方法』とあわせてご覧ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows 98のセットアップ
→『はじめにお読みください』

はじめ
にお読
みくだ
さい

本機を安全に使うための情報
→『安全にお使いいただくために』

安全にお
使いいた
だくため
に

Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法
→『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』または
Windows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft
Windows 98ファーストステップガイド』



このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)
→『活用ガイド ハードウェア編』



本機にインストール/添付されているアプリケーションの削
除/追加、再セットアップ
→『活用ガイド ソフトウェア編』



トラブル解決方法
→『活用ガイド ソフトウェア編』

本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明
→『ハードウェア拡張ガイド』



MA40H/Sのシステム設定(BIOS設定) 再セットアップの補足情報
→『本機をお使いの方へ』



ディスプレイの利用方法
→液晶ディスプレイ、CRTディスプレイがあり、マニュアルが添
付されています。ご使用のモデルにより異なります。



選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→一太郎9・花子9パック、Office 2000 Personal、Word &
Excel、一太郎9 & 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付され
ています。ご使用のモデルによって異なります。



ビジネスでお使いになるお客様向けのメンテナンスとサポート情報の紹介
→『メンテナンス&サポートのご案内』



パソコンに関するNECの相談窓口や受講施設、故障時のサー
ビス網の紹介
→『NEC PC あんしんサポートガイド』



電子マニュアルの利用について

次のwebサイト(PICROBO)では、NEC製のマニュアルを電子マニュアル化し、ダ
ウンロードできるサービスを行っています。また、NEC PCマニュアルセンター
ではマニュアルの販売を行っています。

<http://download.pc98.nec.co.jp/m/NX/index.htm>

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、
技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための
書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windows 98の基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windows 98もしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがコンピュータにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX シリーズ Mate NX

MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M

MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/S

MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、

MA40H/L

(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様に合わせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PART3 付録」をご覧ください。

1999年 5月 初版

1999年 7月 二版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。



メニュー

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

このマニュアルでは、機種ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。



ミニタワー型



デスクトップ型



省スペース型

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 PC98-NX シリーズ Mate NX MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/S MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/L (Windows 98インストールモデル) * 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、 MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/S MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/Lを指します。
ミニタワー型	次の機種を指します。 MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M
デスクトップ型	次の機種を指します。 MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/S
省スペース型	次の機種を指します。 MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/L
NetPCモデル	フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。
ディスプレイセットモデル	CRTディスプレイまたは液晶ディスプレイとセットでご購入いただいたモデルです。
アプリケーションなしモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎モデル	一太郎9・花子9パックがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000モデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Wordモデル	Word 98、Excel 97、Outlook98がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎9 & 1-2-3 2000モデル	一太郎9とロータス1-2-3 2000がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです
「スタート」ボタン→ 「設定」→ 「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。

- 【 】 【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。
- 『 』 『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
一太郎9	・ 一太郎モデルの場合 一太郎9・花子9バック(一太郎9、花子9、三四郎9、ATOK12、Shuriken 2.0、Sasuke) ・ 一太郎9 & 1-2-3 2000モデルの場合 一太郎9
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/Shogakukan Bookshelf® Basic)
Word & Excel	Microsoft® Excel 97 & Word 98 & Outlook™98 for Windows®、Microsoft®/Shogakukan Bookshelf® Basicマルチメディア統合辞典Version 2.0(添付)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000
スーパーディスク	SuperDisk™

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・ このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。
-

■ 技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-BUQE-ST

認証番号

電話回線：A99-0027JP

導入にあたっては、「MDMNBQD.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS-C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブ、またはCD-RWドライブが搭載されています。

■ 高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されていません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、BookshelfおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」「一太郎9・花子9パック」「Shuriken」「Sasuke」は、株式会社ジャストシステムの登録商標または商標です。

「一太郎9・花子9パック」「一太郎9」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎9・花子9パック」「一太郎9」にかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Corporationの登録商標です。

Savage4は、S3社の商標です。

Rageは、ATI Technologies, Inc. の商標です。

pcANYWHERE32 は Symantec Corporation の米国における登録商標です。

Intel、Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent TechnologiesとCONEXANT SYSTEMSの商標です。

SuperDisk、SuperDiskロゴは、米国イメージン社の商標です。

PrebootManagerは、Phoenix Technologies Ltdの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART3までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック!!)、用語(◆用語◆)、メモ(メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 システム設定

本機を使用環境に合わせて設定するための、BIOSセットアップメニュー(MA40H/Sを除く)の使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

MA40H/Sをご利用の場合は、『本機をお使いの方へ』をご覧ください。

PART3 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載しております。

はじめに	i
このマニュアルの表記について	ii
ご注意	vi
このマニュアルの構成・読み方	vii
目次(このページです)	viii
索引	xii

本体の構成各部 1

各部の名称	2
本体正面	2
本体背面	9
電 源	15
電源の状態と操作方法	15
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	18
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	21
電源の自動操作	25
電源の管理について(APMモード/ACPIモード)	26
キーボード	33
添付されるキーボードの種類	33
角度調整	33
USB109キーボードとPS/2 109キーボード	34
USB小型キーボード	37
アプリケーションキーとWindowsキー	40
日本語入力	41
設定を変更する	43
使用上の注意	44
USB接続キーボードの使用上の注意	45
マウス	46
マウスについて	46
使用上の注意	47
設定を変更する	48
ディスプレイ	49
表示できる解像度と表示色	49
ディスプレイの表示の設定を変更する	54

ディスプレイの省電力機能	55
適合するディスプレイを使う	56
ハードディスクドライブ	57
使用上の注意	57
ドライブ番号の割り当て	59
スキャンディスクの操作手順	60
デフラグの操作手順	61
フロッピーディスクドライブ	62
フロッピーディスクを取り扱うときの注意	62
使用できるフロッピーディスク	63
フロッピーディスクの内容の保護	63
フロッピーディスクのフォーマット	64
スーパーディスクドライブ	65
スーパーディスクを取り扱うときの注意	65
使用できるディスク	66
ディスク内容の保護	67
ディスクのフォーマット	68
非常時のディスクの取り出し	69
CD-ROM ドライブ	70
CD-ROMを取り扱うときの注意	71
再生できるCDの種類	72
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)	73
非常時のディスクの取り出し	74
CD-RW ドライブ	75
CD-RおよびCD-RWを取り扱うときの注意	76
再生できるCDの種類	77
CD-RおよびCD-RWへのフォーマットおよび書き込み	78
非常時のディスクの取り出し	79
サウンド機能	80
音量の調節	80
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	81
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	81
LANの設定	82

PART

2

ネットワークパスワードの変更について	83
FAXモデムボード	85
FAXモデムボードについて	85
FAXモデムボードを使用するときの注意	86
Mate NXセキュリティ/マネジメント機能	90
セキュリティ/マネジメント機能の概要	90
セキュリティ機能	91
運用管理機能	93
障害管理機能	96
ヘルプの表示方法	98
特定の操作手順についてのヘルプ	98
設定項目のヘルプ(画面に表示されている項目についてのヘルプ) ...	98

システム設定 99

BIOS セットアップメニューについて	100
BIOSセットアップメニューの構造	100
BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面	101
BIOSセットアップメニューの終了	101
工場出荷時の設定値に戻す	103
メインの設定	104
メインの構造	104
メインの設定	104
詳細の設定	109
詳細の構造	109
詳細の設定	110
セキュリティの設定	116
セキュリティの設定	116
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)	120
省電力の設定	121
省電力管理	121
起動の設定	125
電源の設定	125
起動順位の設定	126

付 録	129
機能一覧	130
型番の読み方	130
仕様一覧	130
ATコマンド	144
コマンドの構成	144
コマンド一覧	145
割り込みレベル一覧	155
DMAチャネルの割り当て	160
本機のお手入れ	161
マウスのクリーニング	162
スーパーディスクドライブのクリーニング	164

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	81	DPMS	55
100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ ...	12	FAX機能	142
109キーボード	34	FAX通信機能	85
10BASE-T	81	FAXモデムによる電源の自動操作 ...	26
3.5インチフロッピーディスクドライブ ...	4	FAXモデムボード	11, 85
ACPIモード	26	FAXモデムボード機能仕様	142
AC電源コネクタ	11	I/Oロック	92, 119
AC投入	125	IDEデバイス	124
APMモード	26	IEC825	v
ATAPI	126	IRQ	110
ATOK12	42	JIS	v
ATコマンド	144	LANDesk(R) Service	114
BIOS LOCK	91	LANの設定	82
BIOSセットアップメニュー	100	LANボード	11
BIOSリビジョン	108	LANボード機能仕様	142
Caps Lockランプ	34, 37	MS-IME	41
CD-ROM	70	NCU機能	143
CD-ROMアクセスランプ	7	NetPC	iii
CD-ROMドライブ	6, 70	Num Lockランプ	34, 37
CD-RWドライブ	75	Nキーロールオーバー	44
DFP	56	Office 2000	41
DMAチャンネルの割り当て	160	OFF state Alert II	96
DMIイベントログ	114	PC-11-1988	v
		PC-9800	13, 63
		PCIスロット	13

PCI設定	110
PCIバス監視	124
PK-CA101	13
PK-CA102	13
PK-KB009	45
PK-MC201	45
PK-MC202	45
PK-SM001	91
PK-SM002	91
PK-SM003	91
PK-UP001	45
PK-UP004	45
PME	118
Preboot Management	95, 115
PS/2接続キーボードコネクタ	14
PS/2接続マウスコネクタ	14
RS-232C変換アダプタ	13
Scroll Lockランプ	34, 37
Sレジスタ	153
USBコネクタ	8, 11
USBハブ	45
VCCI	V
VESA	55
Windowsキー	34, 38, 40

ア行

アース端子	13
アナログRGBコネクタ	12
アプリケーションキー ...	34, 38, 40
イラスト	iv

インサートキー	35, 38
ウイルス	97, 118
ウィンドウアクセラレータ	49
運用管理機能	93
液晶ディスプレイ	49, 50, 51, 52, 53
エスケープキー	34, 37
エンターキー	35, 38
エンドキー	35, 38
エンドユーザ管理	93
オルトキー	34, 38
音量の調節	80

カ行

カーソル移動キー	35, 38
解像度	49
書き込み禁止	63, 67
拡張メモリ	107
角度調整	33
カタカナひらがな/ローマ字キー ...	35, 38
型番の読み方	130
カバーオープン	119
カバーセンサ	95
カバーをロック	92
画面	iv
キーボード	33
キーボード機能	107
キーロールオーバー	44
起動順位	126
キャッシュメモリ	111
キャプスロック/英数キー	34, 37

筐体ロック	13, 92
クイックブート	113
クライアントモニタリング	97
クリーニングキット	164
工場出荷時の設定値	103
高調波電流規制	V
小型キーボード	37
コントロールキー	34, 37
コンプリートオフ	55

サ行

サウンド	113
サウンド機能	80
サスペンド	55
資源管理	97
時刻指定	124
自己診断	107
システムスイッチ	122
システムメモリ	107
自動サスペンド	122
シフトキー	34, 37
周辺機器設定	111
瞬時電圧低下	V
障害管理機能	96
状態監視	97
省電力	121
省電力機能	55
初期化	110
シリアルコネクタ	13
スーパーディスクドライブ	4, 65

スーパーバイザパスワード	116
スキップセクタ	58
スキャンディスク	60
スクロールボタン	46
スクロールロックキー	34, 37
スタビライザ	8
スタンバイ	55
スタンバイ機能	15
スタンバイ状態	16
スペースキー	35, 38
スマートカード	91
セカンダリスレーブ	106
セカンダリマスタ	106
セキュリティモード	117
ソフトウェアパワーOFF	97

タ行

タイマ	25
タイムアウト	122
タブキー	34, 37
通風孔	13
データ通信機能	85
データモデム機能	143
ディスクアクセスランプ	5
ディスクイジェクトボタン	5
ディスクトレイイジェクトボタン ...	7
ディスプレイ	49
適用電話回線	86
デフォルト値	101
デフラグ	61

デリートキー	35, 38
電源	15, 125
電源スイッチ	4
電源ランプ	4
電波障害	v
電話回線用モジュラーコネクタ ...	12
電話機用モジュラーコネクタ	12
盗難防止	13
ドライブ番号	59
取り外し可能なデバイス	126

ナ行

内蔵スピーカボリューム	5, 80
日本語入力	41
ニューメリックロックキー ...	35, 38
認証番号	v
ネットワーク起動	118
ネットワーク通信/接続ランプ	12
ネットワークブート	101, 126

ハ行

ハードディスクアクセスランプ ...	4
ハードディスクドライブ	57
ハイパワーデバイス	45
パケット	94
パスワード	83, 117
パスワードの解除	120
バックアップ	57, 118
バックスペースキー	35, 38
ハブ	81

パラレルコネクタ	13
半角/全角/漢字キー	34, 37
表示色	49
ファイルベイ	8
ファイルベイカバー	8
ファンクションキー	34, 37
フォーマット	63, 64, 66, 68
復帰	16
プライマリスレーブ	106
プライマリマスタ	105
プラグ&プレイO/S	110
不良セクタ	58
プリンタインターフェース変換アダプタ ...	13
プリントスクリーンキー	34, 37
フロッピーディスクドライブ	62
フロッピィアクセス	117
フロントマスク	8
ページアップキー	35, 38
ページダウンキー	35, 38
ヘッドホン端子	5, 7
ヘッドホンボリューム	7
ヘルプ	98
変換キー	35, 38
ポーズ/ブレイクキー	34, 37
ホームキー	35, 38
ボリュームコントロール	80
本機	iii
本機のお手入れ	161
本体	iii

マ行

マイクロホン端子	11
マウス	46
マネジメント機能	90
マルチポートリピータ	81
ミニDIN6ピン	14
ミニジャック	11
無変換キー	34, 38
メンテナンスウィザード	61
モデムリング	123

ヤ行

ユーザパスワード	116
輸出	vi

ラ行

ライトプロテクト	63, 67
ライトプロテクトノッチ	63, 67
ライン出力端子	11
ライン入力端子	11
リザルトコード	151
リフレッシュレート	54
リモートコントロール	95
リモートパワーオン機能	26, 94
リンクケーブルの接続	81
ルーフカバーオープン検知	95
レーザ安全基準	v
レジューム	124
ローカルバスIDEアダプタ	113

ローパワードデバイス	45
漏洩電流自主規制	v

ワ行

割り込みレベル一覧	155
-----------------	-----

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称	2
電源	15
キーボード	33
マウス	46
ディスプレイ	49
ハードディスクドライブ	57
フロッピーディスクドライブ	62
スーパーディスクドライブ	65
CD-ROMドライブ	70
CD-RWドライブ	75
サウンド機能	80
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	81
FAXモデムボード	85
Mate NXセキュリティ/マネジメント機能	90
ヘルプの表示方法	98

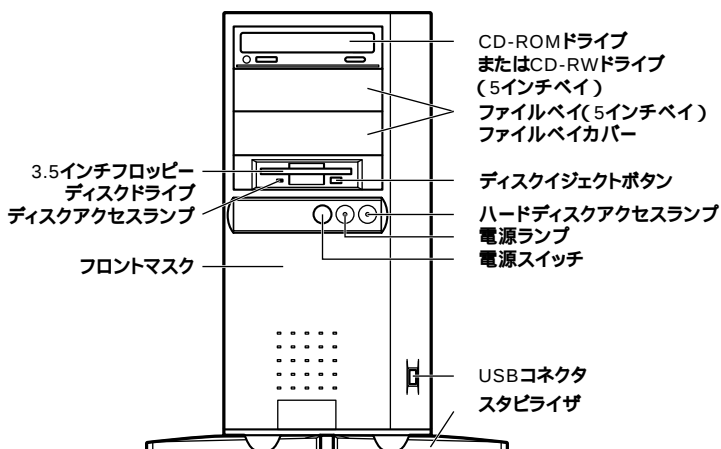
各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面

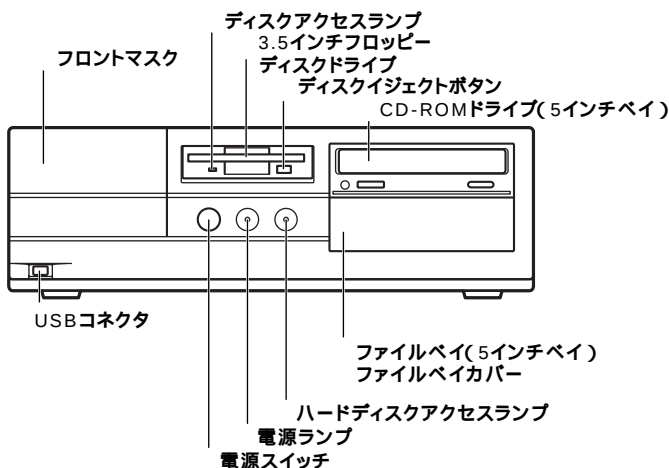


■ MA55J/M、MA50J/M、MA45J/Mの場合

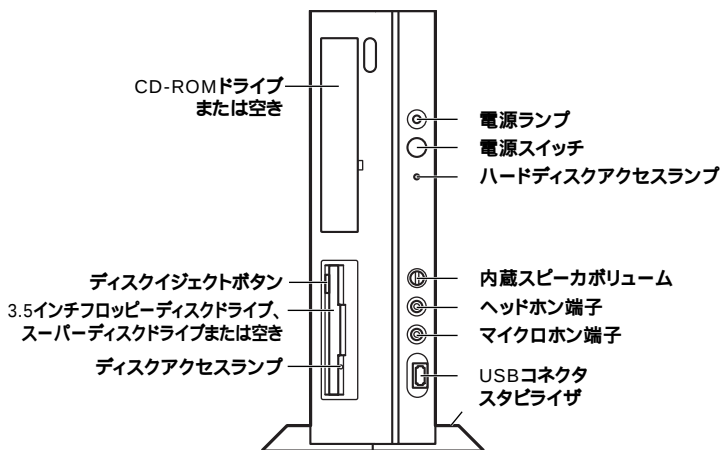




■ MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/Sの場合



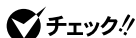
■ MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/Lの場合



電源スイッチ(⏻)

本体の電源の状態を変更(入れる/切るとスタンバイ/スタンバイからの復帰)するスイッチです。

→「電源」(P.15)



チェック!

- ・電源スイッチを入れたり切ったりする操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔を空けてください。→「電源」(P.15)
- ・電源スイッチでスタンバイするには、BIOSセットアップメニューの「省電力管理」の「システムスイッチ」を「スリープボタン」にする必要があります。(工場出荷時の状態では「パワーボタン」に設定されています。)
→「PART2 システム設定」省電力の設定 (P.121)

電源ランプ(Ⓛ)

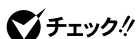
電源およびスタンバイの状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。

ハードディスクアクセスランプ(Ⓜ)

IDEデバイス(プライマリマスタ/スレーブ、セカンダリマスタ/スレーブ)が読み書きしているときに点灯します。

工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、CD-ROM/CD-RWドライブ(セカンダリマスタ)、スーパーディスクドライブ(セカンダリスレーブ)などがあります。なお、CD-ROM/CD-RWドライブ、スーパーディスクドライブの種類によっては点灯しないことがあります。

→「ハードディスクドライブ」(P.57)「CD-ROMドライブ」(P.70)
「CD-RWドライブ」(P.75)「スーパーディスクドライブ」(P.65)



チェック!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

3.5インチフロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。

→「フロッピーディスクドライブ」(P.62)

また、スーパーディスクドライブでは、スーパーディスクに大容量のデータを書き込むことができます。

→「スーパーディスクドライブ」(P.65)

NetPCモデルの場合は、搭載されていません。

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクやスーパーディスクを取り出すときに使います。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクやスーパーディスクを取り出したりしないでください。フロッピーディスクやスーパーディスクの内容がこわれることがあります。



ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。



内蔵スピーカボリューム(🔊)

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

→「サウンド機能」(P.80)



マイクロホン端子(🎤)

ミニプラグのマイクロホンを接続します。

→「サウンド機能」(P.80)

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブまたは空き

CD-RWドライブではCD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。

→「CD-RWドライブ」(P.75)

CD-ROMドライブは、CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。

→「CD-ROMドライブ」(P.70)

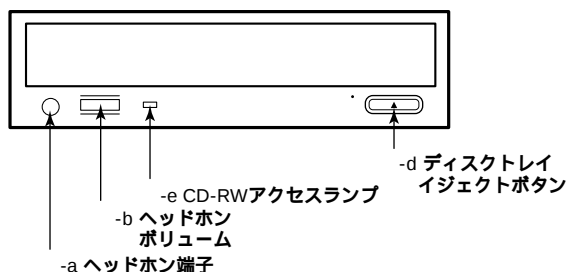
CD-ROMドライブ、CD-RWドライブを取り外して、他のファイルベイ用内蔵機器に交換することができます。

→『ハードウェア拡張ガイド』

CD-RWドライブ拡大図



■ MA55J/Mの場合

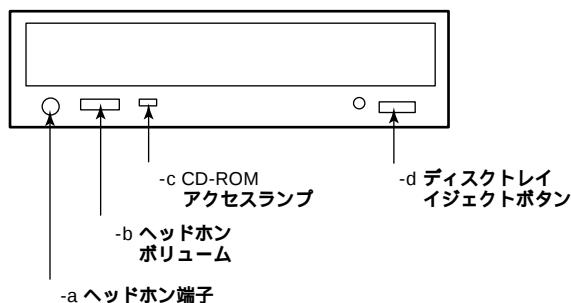


CD-ROMドライブ拡大図

機種によってボタン、ランプなどの位置が異なる場合があります。



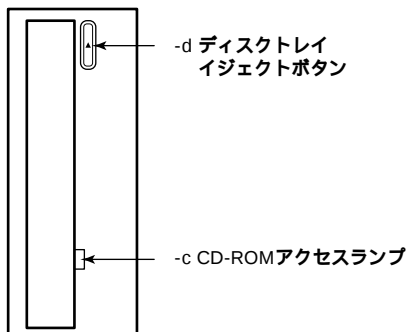
■ ミニタワー型、デスクトップ型の場合





■ 省スペース型の場合

NetPCモデルの場合は、搭載されていません。



-a ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽CDの再生音だけです。

-b ヘッドホンボリューム

CD用ヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

-c CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクトレイイジェクトボタンを押したりしないでください。CD-ROMドライブの故障の原因となります。

-d ディスクトレイイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

-e CD-RWアクセスランプ

CD-RWドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

点灯中は電源スイッチを押したり、ディスクトレイイジェクトボタンを押したりしないでください。CD-RWドライブの故障の原因となります。

USBコネクタ()

USB機器を接続します。

ファイルベイカバー

ファイルベイにリムーバブルメディア用の内蔵機器を取り付けるときは、このファイルベイカバーを取り外し、別売のファイルベイカバーを取り付けます。



ファイルベイ

ファイルベイ用内蔵機器を取り付けます。ファイルベイにはサイズの違いにより、3.5インチベイ、5インチベイの2種類があります。

参照

本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

フロントマスク

本体前面のカバーです。



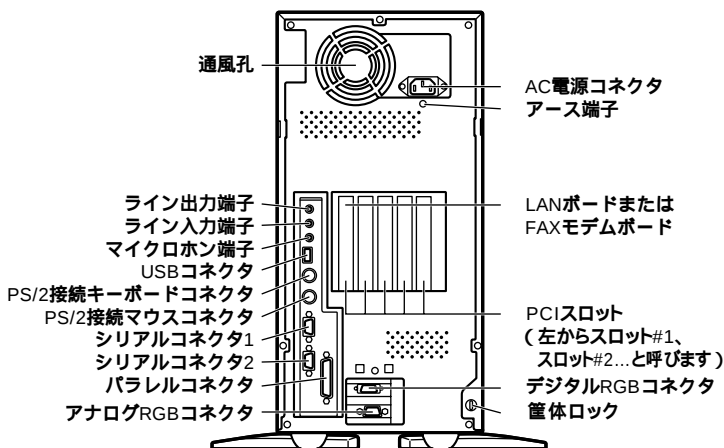
スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

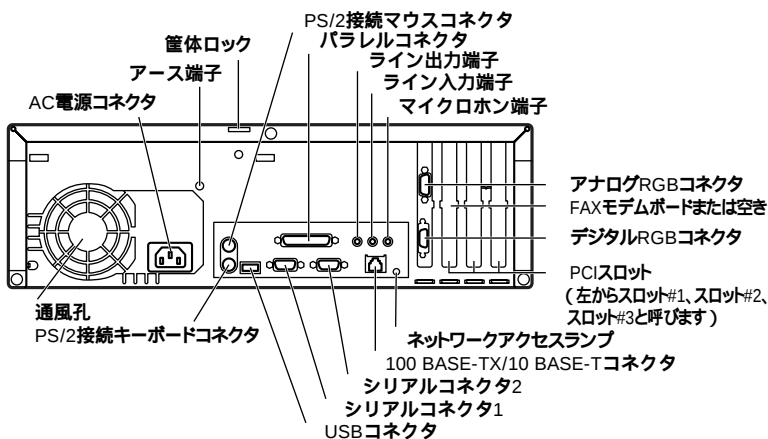
本体背面



■ MA55J/M、MA50J/M、MA45J/Mの場合

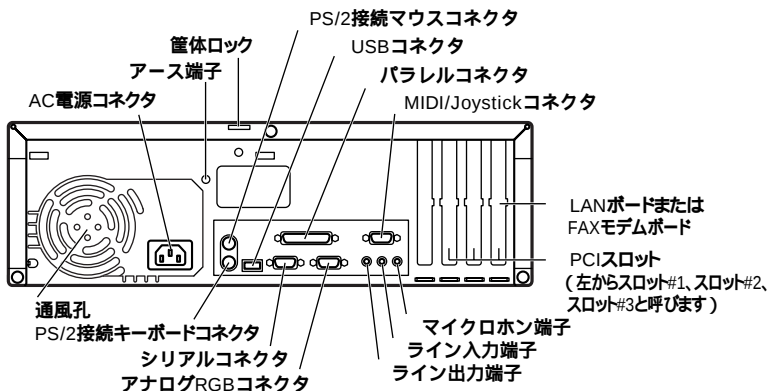


■ MA55J/S、MA50J/S、MA45J/Sの場合

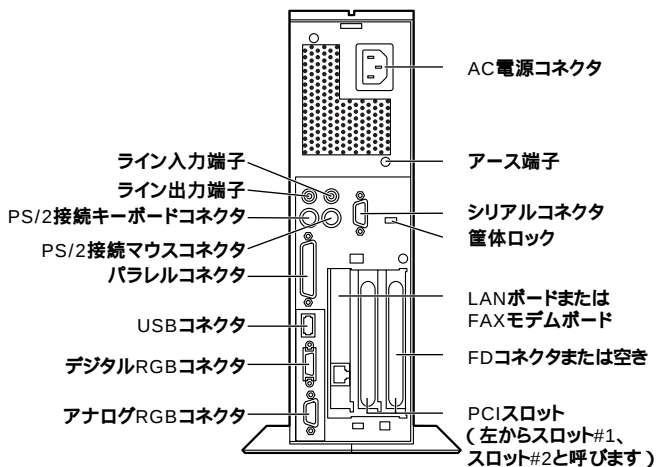




■ MA40H/Sの場合



■ MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/Lの場合



AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USBコネクタ(・⇄)

USB機器を接続します。



マイクロホン端子(ミニジャック)(🎧)

市販のマイクロホンを接続します。

ライン入力端子(ミニジャック)(🎵)

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

ライン出力端子(ミニジャック)(🎵➡)

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

LANボードまたはFAXモデムボード

LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。

LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.81)

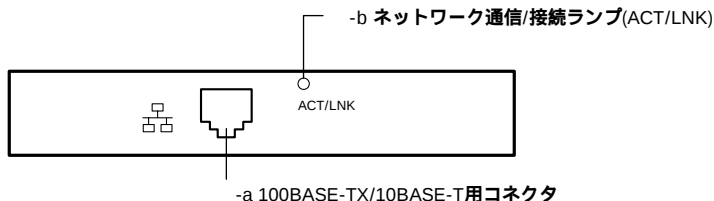
FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXの送受信などを行うことができます。

→「FAXモデムボード」(P.85)

LANボード拡大図

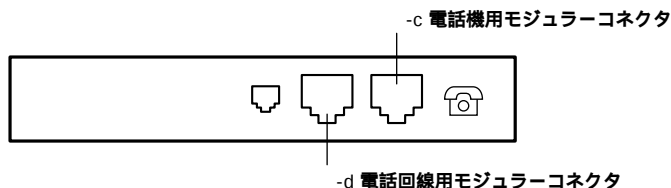
- MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M、MA40H/S、MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/L

機種によってアイコン、コネクタの位置が異なる場合があります。



FAXモデムボード拡大図

機種によってアイコン、コネクタの位置が異なる場合があります。



-a 100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(□)

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

-b ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LNK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ/マルチポートリピータなどから、リンクパルスを受信すると点灯します。

ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

-c 電話機用モジュラーコネクタ(☎)

電話機を接続します。

-d 電話回線用モジュラーコネクタ(☎)

電話回線を接続します。

アナログRGBコネクタ(□)

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。

→「ディスプレイ」(P.49)

デジタルRGBコネクタ(□)

デジタルインタフェースのディスプレイを接続します。

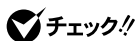
→「ディスプレイ」(P.49)



チェック!! アナログRGBコネクタとデジタルRGBコネクタは、同時に利用できません。

パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

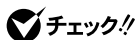


チェック!

- ・PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。
- ・パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。

シリアルコネクタ1,2(,)またはシリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。



チェック!

- ・工場出荷時、シリアルコネクタ2は「使用しない」になっています。使用する場合は「PART2 システム設定」詳細の設定(P.109)を参照して設定してください。
- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
- ・RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用できます。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

筐体ロック()

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。



参照

「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能(P.90)

アース端子()

アース線を接続します。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

PCIスロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入するスロットです。



参照

本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2 109キーボードが添付されているモデルでは、PS/2 109キーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。

→「キーボード」(P.33)

PS/2接続マウスコネクタ()

PS/2 109キーボードが添付されているモデルでは、マウス(ミニDIN6ピン)を接続します。

→「マウス」(P.46)



- MA40H/C

FDコネクタまたは空き

NetPCモデルの場合、再セットアップするために別売の外付けのフロッピーディスクドライブを接続します。



- MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S

ネットワークアクセスランプ

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点灯します。また、ハブ(マルチリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の実読み込み/書き込みとは限りません。



- MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S

100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ

別売の専用ケーブル(リンクケーブル)を使って、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続します。

→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.81)



- MA40H/S

MIDI/Joystickコネクタ

MIDI楽器やジョイスティックなどの機器を接続します。このコネクタにはディスプレイを接続しないでください。

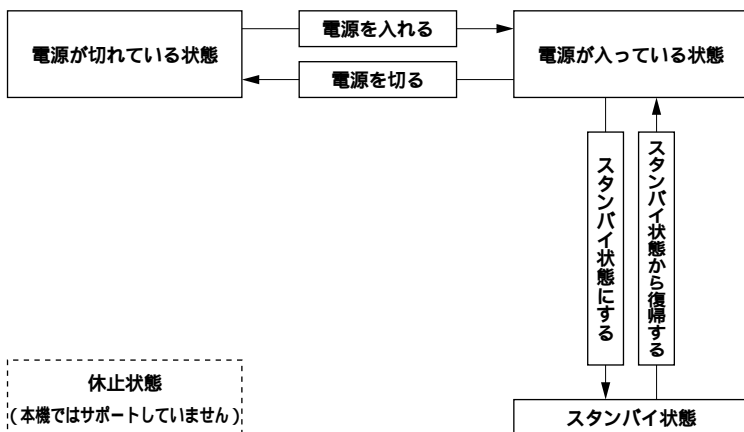
電 源

ここでは電源の入れ方と切り方や、電力を節約するスタンバイ機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



- 電源が切れている状態
Windowsを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。
- 電源が入っている状態
通常、本体を使用している状態です。

- スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブのモータを停止するなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰させるときは素早く元の状態に戻すことができます。

- 休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切った状態です。普通に電源を切るのとは異なり、休止状態から復帰させると、保存した作業内容を復元することができます。

本機では休止状態はサポートしていません。

電源の状態により、ランプとディスプレイの表示は、次のようになります。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
入っている	緑色に点灯する	表示される	緑色に点灯する
切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ	オレンジ色に点灯する	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

用語 スタンバイ状態からの復帰

手動/自動操作によってスタンバイ状態にした本体を電源が入った状態に復帰することをいいます。Windows 98を起動し直す必要がないので、素早く作業を再開できます。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。

● 電源を入れる

電源の操作方法		
電源スイッチを押す		
Timer-NXを利用する	1	
LANによるリモートパワーオン機能を利用する	1	2

● 電源を切る

電源の操作方法		
電源スイッチを押す		
Windowsの終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンを押す		
Timer-NXを利用する		
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する	1	2

● スタンバイ状態にする

電源の操作方法		
電源スイッチを押す	3	
Windowsの終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンを押す		
「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する		
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する		
Timer-NXを利用する		

● スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法		
電源スイッチを押す	3	
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す	4	
Timer-NXを利用する		
LANによるリモートパワーオン機能を利用する	1	2
FAXモデムによるリング機能を利用する		

- 1 ACPIモードでは使用できません。APMモードでのみ使用できます。
- 2 MA40H/Lではご利用になれません。
- 3 電源スイッチでスタンバイ/スタンバイからの復帰をするには、BIOSセットアップメニューの「省電力管理」の「システムスイッチ」を「スリープボタン」にする必要があります。(工場出荷時の状態では、「パワーボタン」に設定されています。)
- 4 PS/2接続キーボード/マウスでは使用できません。

参照

システムスイッチの変更→「PART2 システム設定」省電力の設定(P.121)

-  **チェック!!** ・工場出荷時の状態では、マウスやキーボードからの入力がない状態が約15分間続いた場合に、自動的にディスプレイの電源を切るように設定されています。自動的に電源が切られたディスプレイを再表示する場合や、スタンバイ状態から復帰させるには、マウスを動かすか、キーボードのキーを押してください。設定を変更するには、Windows 98のヘルプをご覧ください。
- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。従って、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、スタンバイ機能を使用してください。
- ・ネットワークの設定がTCP/IPでDHCPサーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』「PART4 トラブル解決Q&A」の「電源を入れたが...」をご覧ください。

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

- 1 フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる



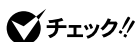
一部の周辺機器では、本体より先に電源を入れないと正しく認識されないことがあります。

-  **チェック!!** 本体のバラレルコネクタに接続されているプリンタの電源は、本体の電源より後で入れてください。

3 本体の電源スイッチを押す

-  **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。PK-UG-M021(256MB)を2枚増設した場合、約4秒かかります。

電源を切る



チェック!!

- ・電源投入後、Windows 98の起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。
- ・本体のパラレルコネクタに接続されているプリンタの電源は、本体の電源より先に切ってください。
- ・BIOSセットアップメニューの「省電力管理」の「システムスイッチ」を「スリープボタン」に変更した場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で終了してください。

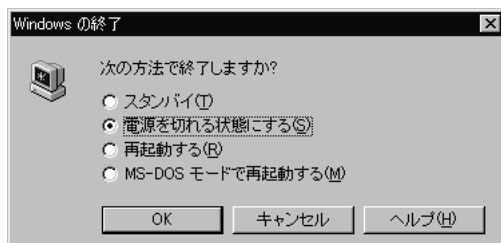
■「スタート」ボタン→「Windowsの終了」による方法

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリック



3 「電源を切れる状態にする」をクリック



4 「OK」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れます。電源スイッチを押さないでください。

5 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る



ソフトウェアのエラーなどで、Windows 98の操作ができなくなってしまった場合は、まず【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を押してアプリケーションの強制終了ができるかどうかを試してください。この方法でアプリケーションを強制終了できない場合は、電源スイッチを約4秒以上押し続けることによって、強制的に電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

■ 電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

「Windowsを終了します。よろしいですか？OK/キャンセル」と表示されます。

チェック!! 電源スイッチを4秒以上押すと強制終了します。

2 「OK」ボタンをクリック

自動的に電源が切れます。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。

本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰をするには、APMモード時はBIOSセットアップメニューの「省電力管理」の「システムスイッチ」を「スリープボタン」に、ACPIモード時は「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「電源管理」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に変更する必要があります。

参照

「PART2 システム設定」『省電力の設定』(P.121)

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の手順があります。

■「スタート」ボタン→「Windowsの終了」による方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックし、「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、次の2通りの手順があります。

- ✔ **チェック!** スタンバイ状態から元の状態に復帰するときは、本機に負担がかかることを避けるため、電源ランプがオレンジ色に点灯してから少なくとも5秒以上待ってから操作してください。

■ 入力デバイスによる方法

- 1** マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

- ✔ **チェック!** 電源の管理のモードがACPIモードの場合は、PS/2 109キーボード、マウスでスタンバイ状態から復帰させることはできません。

■ 電源スイッチによる方法

- 1** 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

⚠ 注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを怠ると、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

- スタンバイ機能が使用できないとき
 - ・ 使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ機能を使用しないでください。
 - ・ 使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態からの復帰ができないことがあります。
 - ・ システム変更作業(ドライバの設定や、プリンタの追加など)の途中でスタンバイ状態になった場合には、スタンバイ状態から復帰しても正常に動作しないことがあります。デバイスマネージャ表示中やハードウェアウィザード実行中などのシステム変更の途中でスタンバイ状態にならないようご注意ください。
 - ・ FAXモデムを使って通信中のときは、スタンバイ機能が使用できない場合があります。この場合は、通信ソフトウェアを終了してからスタンバイ状態にしてください。
- スタンバイ内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは失われます。

 - ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
 - ・ 停電が起きたとき
 - ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示に従ってください。
- スタンバイ状態からの復帰が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは保証されません。

 - ・ スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中にフロッピーディスクを取り出した、交換したとき
 - ・ スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中にCD-ROMなどを取り出した、交換したとき
 - ・ スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中にPCカードの抜き差しをするなど、本機の環境を変更したとき
 - ・ スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは保証されません。

- ・ プリンタへ出力中のとき
 - ・ 音声または動画を再生しているとき
 - ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
 - ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
 - ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中
 - ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中
 - ・ Windows 98の起動処理中、終了処理中
 - ・ 通信用ソフトウェアを実行中
 - ・ モデム/LANなどを使って通信中のとき
 - ・ ネットワークに接続しているとき
 - ・ 本機にNEC製キーボード以外のキーボードを接続しているとき
- スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合
- 次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
- ・ アプリケーションが動作しない
 - ・ スタンバイ内容を復元できない
 - ・ 電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない
- このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。
- その他の注意
- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
 - ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
 - ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。

電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

■「電源の管理」の「システムスタンバイ」

「コントロールパネル」→「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約15分でディスプレイの電源を切るように設定されています。



チェック!

ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」が「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」→15分後

「モニタの電源を切る」→5分後

例2:

「システムスタンバイ」→20分後

「モニタの電源を切る」→なし

■ Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切る、またはスタンバイ状態にする/スタンバイ状態から復帰することができます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるのは、APMモードで使用しているときだけです。ACPIモードでは使用できません。詳しくは『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Timer-NX」をご覧ください。



参照 「電源の管理について」(APMモード/ACPIモード)(P.26)

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるPCの電源を入れる機能です。「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」「運用管理機能」の「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.94)をご覧ください。

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。詳しくは、FAXモデムのマニュアル、『活用ガイド ソフトウェア編』PART1アプリケーションの概要と削除/追加』の「Timer-NX」「リング機能の設定を行う」をご覧ください。

電源の管理について(APMモード/ACPIモード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードを使うことができます。本機は工場出荷時の状態では、APMモードに設定されています。

用語 APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは本体や周辺機器の電源の管理を、BIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

用語 ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、本体や周辺機器の電源の管理をOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみで、Windows 98で実現できるようになりました。

モードの確認

本機がどちらのモードで動作しているかは「システム情報」で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」の「システム情報」をクリック
- 2 「コンポーネント」をダブルクリック
- 3 「システム」をクリック
画面をスクロールさせ、次の情報が表示されることを確認してください。
 - ・ APMモードのとき
「アドバンストパワーマネジメント サポート」
 - ・ ACPIモードのとき
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」

APMモード / ACPIモードの切り替え方法

APMモード / ACPIモードを切り替える際には、Windows 98に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。

- APM / ACPIモードの切り替え時の注意事項
 - ・ ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを一つ使用します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み (IRQ) を確認してから行ってください。
 - ・ モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。
 - ・ APMモード (工場出荷時) からACPIモードに切り替えた後、ACPIモードからAPMモードに戻すには再セットアップが必要です。

参照▶ 再セットアップ→『活用ガイド ソフトウェア編』PART2 再セットアップする」

■ APMモードからACPIモードへの切り替え

本機では、本機で提供する切り替え準備ファイル(C: ¥MODECHG ¥ACPI_APM.VBS)およびレジストリ変更ファイル(C: ¥MODECHG ¥APMOFF2.REG)を使用して、モードを切り替えます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック
- 2 エクスプローラから「C: ¥MODECHG ¥ACPI_APM.VBS」をダブルクリック
- 3 「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 4 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 5 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 6 「ハードウェアの追加」をダブルクリック
- 7 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面で「次へ」ボタンをクリック
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 9 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 10 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検索されます。」というメッセージが表示されたら「はい(通常はこちらを選んでください)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

11 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ハードウェアの検出が始まります。

12 「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

-  **チェック!** ・「次のプラグアンドプレイデバイスがインストールされました。」と表示された場合、「ほかのデバイスをインストールする」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- ・Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示された場合は、本体ハードディスクにあるC:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABSフォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
 - ・APMモードからACPIモード切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が640×480の16色モードになる場合があります。切り替え完了後、画面のプロパティで元の設定に再設定してください。

 **参照** 「ディスプレイの表示の設定を変更する」(P.54)

13 ハードウェアウィザード終了後、「コンピュータを再起動してください」というメッセージが表示されるので「はい」ボタンをクリック

14 「スタート ボタン」→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック

15 エクスプローラから「C:\¥MODECHG¥APMOFF2.REG」をダブルクリック

16 「情報をレジストリに追加しますか?」というメッセージが表示されるので「はい」ボタンをクリック

17 「レジストリに正しく入力されました。」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリック

● ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時にパワーマネジメント機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ スタンバイ状態からの復帰中に電源スイッチを押すと、復帰後にパワーマネジメント機能が動作しなくなります。その場合には、一度スタートメニューのWindowsの終了から再起動を選択し、本機を再起動させると正常に動作するようになります。
- ・ MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタスクを切り替えることにより正常に動作するようになります。

APMモード / ACPIモードの切り替え後の注意

モード切り替え後、1.2MBフロッピーディスクが使用できなくなった場合は、以下の手順で3モードFDドライバを組み込み直してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」の画面が表示されたら、「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリック
- 5 表示されたドライバ名の中に「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」が存在するか確認する



チェック!!

ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」が存在しなかった場合には、6～9の手順は必要ありません。手順10へ進んでください。

- 6 「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」をクリックして反転表示させて「削除」ボタンをクリック

7 「デバイス削除の確認」が表示されますので、「OK」ボタンをクリック

8 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリック

9 Windows 98を再起動する

☑ **チェック!** 再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その場合は、手順19が終了した後に、「ディスプレイの表示の設定を変更する」(P.54)をご覧ください。元の解像度、色数に戻してください。

10 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

11 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

☑ **チェック!** 新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケーションがある場合にはすべて終了させてください。

12 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

13 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
検索が開始されます。

14 「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

15 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検出されます。」というメッセージが表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

16 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

17 製造元とモデルを選択する画面が表示されますので、製造元からはNECをモデル一覧からは「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

18 「完了」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。

19 再起動を促すメッセージが表示されますので、「はい」ボタンをクリック

以上で3モードFDドライバの組み込みは完了です。

キーボード

ここでは、キーボードを使った文字入力や、キーボードの設定、調整の方法を説明します。

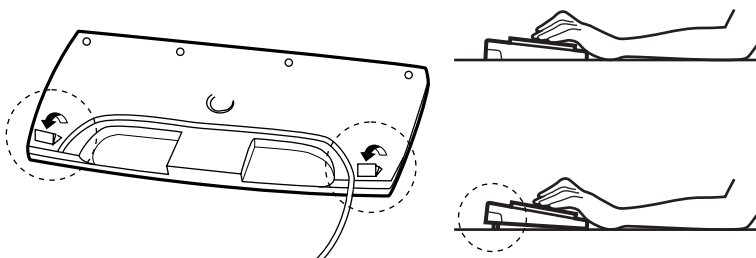
添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列
	USB小型キーボード		109準拠
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列

角度調整

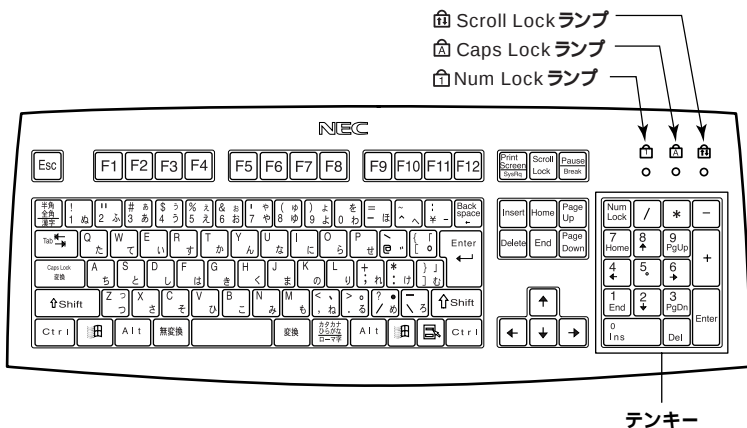
キーボードの裏側には角度調整用の脚があります。脚を立てるとキーボードの角度が変わります。設置状況に応じて使いやすい角度を選択してください。



USB109キーボードとPS/2 109キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen SysRq : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.36)

Pause Break : ポーズ/ブレイクキー

半角/全角漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock 英数 : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプ

スロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.36)

⇧Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

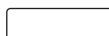
Windowsキー

アプリケーションキー

WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。

Alt : オルトキー

無変換 : 無変換キー

 : スペースキー

 : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ニューメリックロックキー

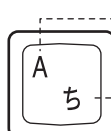
一度押すとニューメリック
ロックし、Num Lockランプ
が点灯します。→「キーを
ロックする」(P.36)

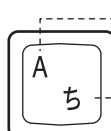
キーの使い方

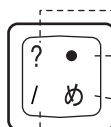
1つのキーにいくつかの文字や記号が印字されているキーがあります。これらの文字や記号は、【Shift】や、日本語入力モードと組み合わせて使うことで入力することができます。これらの操作方法は、使用する日本語入力プログラムによって異なります。

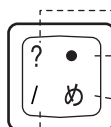
(例)【A ち】と【?/・め】のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち分けるには

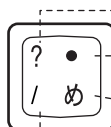
日本語入力モードの設定が工場出荷時の状態(ローマ字入力)からの操作方法を説明します。

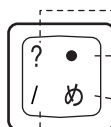
 他のキーと組み合わせず単独で押すと、小文字a
【Shift】と【Caps Lock】を押した後だと大文字A

 【Alt】と【半角/全角/漢字】を押し日本語入力モードにした後、【Alt】と【カタカナひらがな/ローマ字】を押した後に入力

 【Shift】を押しながら、このキーを押す

 【Alt】と【半角/全角/漢字】を押し、日本語入力モードにした後に押す

 (上記のキーで(ち)を入力するときと同じ)

 他のキーと組み合わせずに単独で押す

キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。

それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	テンキーから数字が入力されます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

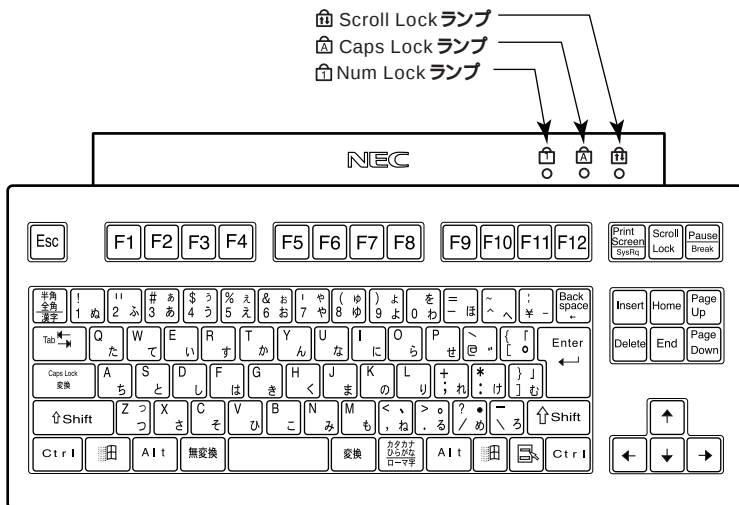
USB小型キーボード

1

本体の構成各部

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.39)

Pause Break : ポーズ/ブレイクキー

半角/全角/漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.39)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

 : Windowsキー

 : アプリケーション キー

WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー

 : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

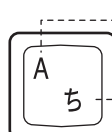
 : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリック
ロックし、Num Lockランプ
が点灯します。→「キーを
ロックする」(P.39)

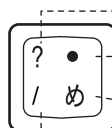
キーの使い方

1つのキーにいくつかの文字や記号が印字されているキーがあります。これらの文字や記号は、【Shift】や、日本語入力モードと組み合わせて使うことで入力することができます。これらの操作方法は、使用する日本語入力プログラムによって異なります。

(例)【A ち】と【?/・め】のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち分けるには

日本語入力モードの設定が工場出荷時の状態(ローマ字入力)からの操作方法を説明します。

 他のキーと組み合わせず単独で押すと、小文字a
【Shift】と【Caps Lock】を押した後だと大文字A

 【Alt】と【半角/全角/漢字】を押した後に、【Alt】と【カタカナひらがな/ローマ字】を押した後に入力

【Shift】を押しながら、このキーを押す

【Alt】と【半角/全角/漢字】を押し、日本語入力モードにした後に押す

(上記のキーで(ち)を入力するときと同じ)

他のキーと組み合わせずに単独で押す

キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。

それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。(イラストのグレーになっているキー部)	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

アプリケーションキーとWindowsキー

アプリケーションキーとWindowsキーは、Windowsで使えるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

アプリケーションキー()

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windowsキー()

Windowsキーだけを押すと、「スタート」メニューを表示します。
Windowsキーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。



「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する



現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する



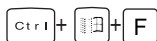
 + **M** でアイコン化しているウィンドウを元に戻す



Windowsのヘルプを起動する



ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する



コンピュータを検索するウィンドウを表示する



タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

日本語入力プログラム	アプリケーションなしモデル	一太郎モデル	Office 2000モデル	Wordモデル	一太郎9&1-2-3 2000モデル
MS-IME98					
MS-IME2000					
ATOK12					

- ：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム
- ：インストールされている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

- ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下の  をクリックし、表示されるメニューから選択する

日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。ここでは、MS-IMEとATOK12での最も簡単な手順を示します。詳しくは、MS-IMEまたはATOK12のヘルプをご覧ください。

■ MS-IMEの場合

- 1 MS-IMEツールバーの一番左のアイコンをクリックして入力する文字の種類をクリック
- 2 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)
- 3 【スペース】を押す(変換の結果が正しくない場合は、正しく変換されるまで繰り返す)

4 【Enter】を押す(この段階で確定し、文字が入力される)



MS-IMEのヘルプを表示するには、MS-IMEツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。



ヘルプを見るにはここをクリック

■ ATOK12の場合

1 ATOK12ツールバーの一番左のアイコンをクリックして入力する文字の種類をクリック

2 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)

3 【スペース】を押す(変換の結果が正しくない場合は、正しく変換されるまで繰り返す)

4 【Enter】を押す(この段階で確定し、文字が入力される)



ATOK12のヘルプを表示するには、ATOK12ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。



最大化ボタンをクリック



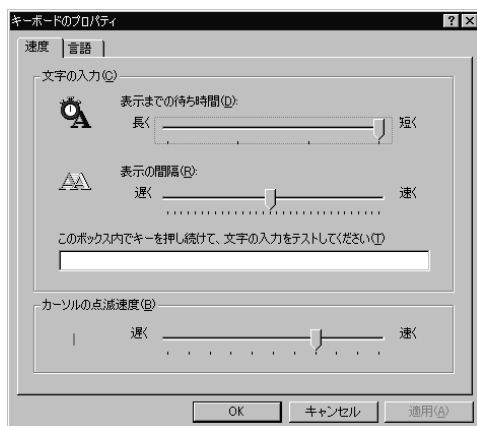
ここをクリック

設定を変更する

キーボードの応答速度やカーソルの点滅速度、使用する言語などを設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「キーボード」をダブルクリック
この操作で次のような画面が表示されます。



詳しくはWindows 98のヘルプを参照してください。

使用上の注意

Nキーロールオーバー

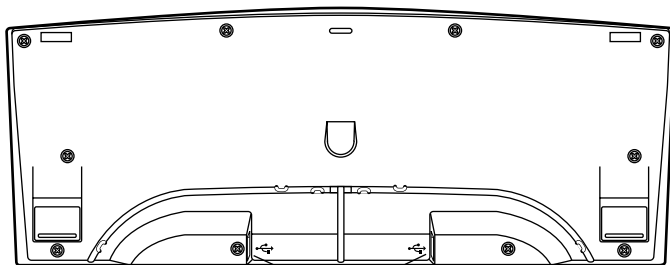
Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB109キーボード、USB小型キーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windows 98を再起動してください。

USB接続キーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが2つ装備されています。そのうち1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



USBバスパワーハブ

電源容量による接続の制限

USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。



ハイパワーデバイス: 接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-UP001 (フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC201(デジタルビデオカメラ)

PK-MC202(デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス: 接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例) PK-KB009 (マウス)

PK-UP004 (バーコードリーダ)

- ・ USB接続のキーボードのUSBハブは、バスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
- ・ USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

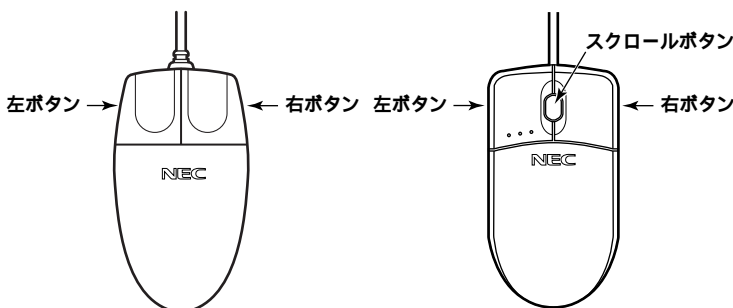
マウス

ここでは、マウスを取り扱うときの注意や、設定の方法を説明します。

マウスについて

本機に添付されるマウスは、ご購入時に選択されたキーボードの種類により異なります。

- PS/2接続のキーボードの場合 ■ USB接続のキーボードの場合



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して放す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

USB接続のキーボードに添付されるスクロールボタン付きマウスには、スクロールボタンがあります。通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときに⤴(スクロールアイコン)が表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。



チェック!!

スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

使用上の注意

マウスの取り扱い

マウスを使うときは、次のことに注意してください。注意を守らずに使用すると、マウスの故障の原因となります。

- ・ ほこりや消しゴムのかすなどのある場所で使わない
- ・ コードを引っかけない
- ・ コードを強く曲げたり、引っ張ったりしない
- ・ 裏面のネジを外さない、分解しない
- ・ 動きが悪くなってきたら、ボールとローラーの汚れを掃除する



「PART3 付録」の「本機のお手入れ」(P.161)

Windows 98の設定

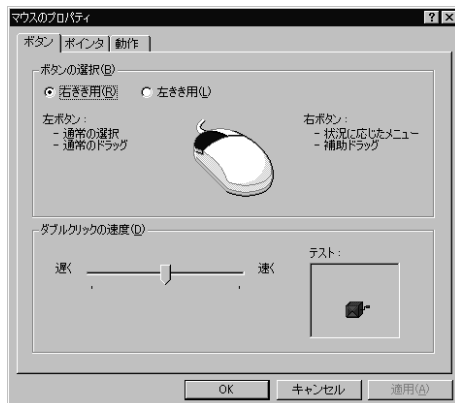
描画速度の速いウィンドウアクセラレータでは、「ポインタの軌跡」を「表示する」に設定しても、軌跡が表示されない場合があります。

設定を変更する

マウスの応答速度やマウスポインタの形などを設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「マウス」をダブルクリック
この操作で次のような画面が表示されます。



詳しくはWindows 98のヘルプを参照してください。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使用の用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

表示できる解像度と表示色

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。



■ MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15インチ CRTディ スプレイ (DV15A2)	17インチ CRTディ スプレイ (DV17C4)	14インチ 液晶ディ スプレイ (F14T41W)	15インチ デジタル 液晶ディ スプレイ (F15S21W)	18インチ 液晶ディ スプレイ (F18S1W)
640×480	256色	43.3	85			×	×	×
	65,536色	37.5	75				×	
	1,677万色	31.5	60					
800×600	256色	53.7	85			×	×	×
	65,536色	46.9	75				×	
	1,677万色	37.9	60					
1,024×768	256色	68.7	85			×	×	×
	65,536色	60.0	75				×	
	1,677万色	48.4	60					
1,280×1,024	256色	80.0	75	×	×	×	×	
	65,536色							
	1,677万色	64.0	60	×		×	×	

15インチデジタル液晶ディスプレイ(F15S21W)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。



チェック!!

使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。



参照 液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「液晶ディスプレイ調整ツール」



■ MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15インチ CRTディス プレイ (DV15A2)	17インチ CRTディス プレイ (DV17C4)	14インチ 液晶ディス プレイ (F14T41W)
640 × 480	256色	43.3	85			×
	65,536色	37.5	75			
	1,677万色	31.5	60			
800 × 600	256色	53.7	85			×
	65,536色	46.9	75			
	1,677万色	37.9	60			
1,024 × 768	256色	68.7	85			×
	65,536色	60.0	75			
	1,677万色	48.4	60			
1,280 × 1,024	256色	80.0	75	×	×	×
	65,536色 1,677万色	64.0	60	×		×



チェック!

使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。



参照

液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「液晶ディスプレイ調整ツール」



■ MA40H/S

1

本体の構成各部

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15インチ CRTディス プレイ (DV15A2)	17インチ CRTディス プレイ (DV17C4)	14インチ 液晶ディス プレイ (F14T41W)
640×480	256色	43.3	85			×
	65,536色	37.5	75			
	1,677万色	31.5	60			
800×600	256色	53.7	85			×
	65,536色	46.9	75			
	1,677万色	37.9	60			
1,024×768	256色	68.7	85			×
	65,536色	60.0	75			
	1,677万色	48.4	60			
1,280×1,024	256色 65,536色 1,677万色	64.0	60	×		×



チェック!

使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。

参照

液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」



■ MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15インチ CRTディ スプレイ (DV15A2)	17インチ CRTディ スプレイ (DV17C4)	14インチ 液晶ディ スプレイ (F14T41W)	15インチ デジタル 液晶ディ スプレイ (F15T31W) (F15S21W)	15.4インチ 液晶ディ スプレイ (F15R42W)
640 × 480	256色	43.3	85			×	×	×
	65,536色	37.5	75				×	
	1,677万色	31.5	60					
800 × 600	256色	53.7	85			×	×	×
	65,536色	46.9	75				×	
	1,677万色	37.9	60					
1,024 × 768	256色	68.7	85			×	×	×
	65,536色	60.0	75				×	
	1,677万色	48.4	60					
1,280 × 1,024	256色	80.0	75	×	×	×	×	
	65,536色 1,677万色	64.0	60	×		×	×	

15インチデジタル液晶ディスプレイ(F15T31W、F15S21W)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。



チェック!!

使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。

参照

液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」



■ MA40H/C、MA40H/L

1

本体の構成各部

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15インチ CRTディスプレイ (DV15A2)	17インチ CRTディスプレイ (DV17C4) 注1	14インチ 液晶ディスプレイ (F14T41W)	15インチ デジタル液晶 ディスプレイ (F15T31W) (F15S21W) 注1 注2
640 × 480	256色	43.3	85			×	×
	65,536色	37.5	75				×
	1,677万色	31.5	60				
800 × 600	256色	53.7	85			×	×
	65,536色	46.9	75				×
	1,677万色	37.9	60				
1,024 × 768	256色	68.7	85			×	×
	65,536色	60.0	75				×
	1,677万色	48.4	60				
1,280 × 1,024	256色 65,536色 1,677万色	64.0	60	×		×	×

15インチデジタル液晶ディスプレイ(F15T31W、F15S21W)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。

注1 NetPCモデルでは、ご利用になれません。

注2 MA40H/Lでは、ご利用になれません。



チェック!

使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。

参照

液晶ディスプレイ調整ツール→『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

ディスプレイの表示の設定を変更する

ディスプレイの解像度やデスクトップの配色などを設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「画面」をダブルクリック
- 3 「設定」タブをクリック

この操作で次のような画面が表示されます。

表示される画面は、機種やモデルにより異なります。



詳しくはWindows 98のヘルプをご覧ください。



チェック!

リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とモニタの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定は機種によっては「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Management System)に対応しています。ディスプレイセットモデルをご購入のお客様は、ディスプレイの省電力機能が使用できます。



チェック!

省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。

適合するディスプレイを使う

本機に接続するディスプレイは表示できる解像度と表示色 (P.49) を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

別売のディスプレイについて

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、以下のことに注意してください。

- ・ 別売のデジタル液晶ディスプレイを使用する場合は、VESAのDFP (Digital Flat Panel) に準拠したデジタルインタフェースを持つデジタル液晶ディスプレイをご利用ください。



- ・ デジタルインタフェースを持つディスプレイとアナログインタフェースを持つディスプレイを同時に利用することはできません。
- ・ Windows 98を使用する場合は、640 × 480 ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。
別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて本体の設定を変更する必要があります。
- ・ 本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。
- ・ 別売のディスプレイを使用する場合は、解像度、走査周波数の条件を満たしていることを確認してください。
- ・ ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。
- ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM212

PC-KM174

液晶ディスプレイ調整ツールについて

液晶ディスプレイの画面を調整する場合、本機に添付の液晶ディスプレイ調整ツールをご利用ください。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「液晶ディスプレイ調整ツール」

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

△ 注意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- 温度、湿度条件を守ってください。
温度10 ～ 35 、湿度20% ～ 80%(ただし結露しないこと)
- ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- 電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- 電源を切るときは、Windows 98のシャットダウンを行ってから電源を切ってください。
正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。
- 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。



『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」Windows 98のヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 98の「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
4.3Gバイト	4,300,000,000バイト以上
6.4Gバイト	6,400,000,000バイト以上
8.4Gバイト	8,400,000,000バイト以上
18.0Gバイト	18,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。



ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。



本機で利用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクドライブは、工場出荷時には第1パーティション（ドライブ番号:Cドライブ）として2GBの領域が確保されています。残りの領域は、第2パーティションとして確保されています。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

- CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ(第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ(第2パーティション、残りすべて、FAT32)
Qドライブ	CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ

- NetPCモデルの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Cドライブ	ハードディスクドライブ(第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	ハードディスクドライブ(第2パーティション、残りすべて、FAT32)



領域を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドについては『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 再セットアップする」の「ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(カスタム再セットアップ)」をご覧ください。

スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダにデータエラーがないかチェックできます。

Windows 98が起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」をクリック
- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する
- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見されなかった場合は、「閉じる」ボタンをクリック
エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度「閉じる」ボタンをクリック

Windows 98が起動できなかった場合(異常があった場合)

- 1 本体の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴ表示画面で、「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します。F12 :ネットワークブートします。」と表示されたら、すぐに【Ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す
- 3 「5.Command prompt only」を選択し、【Enter】を押す
- 4 コマンドプロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す

- 5 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択して修復する
- 6 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら、矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す
- 7 【X】を押してスキャンディスクを終了する



チェック!

定期的にはスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーが無いことを確認してください。

メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にはスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド ソフトウェア編』「PART2 再セットアップする」をご覧ください。

デフラグの操作手順

ハードディスクを長い間使っていると、データがディスクの空いている場所に、ばらばらに保存されるようになります。データが連続していないと、データを読み書きする時間が長くなります。デフラグを使うと、このようならばらになったデータを、最適な場所に整理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「デフラグ」をクリック
- 2 「ドライブの選択」の画面でデフラグを実行するドライブを選択する
- 3 「OK」ボタンをクリック
- 4 「ディスクの最適化」ダイアログボックスが表示されたら、「はい」ボタンをクリック



チェック!

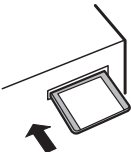
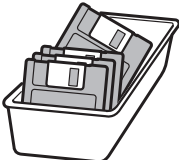
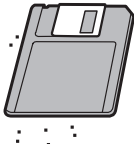
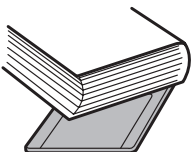
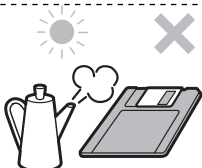
デフラグ実行中は、絶対に本機の電源を切らないでください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

フロッピーディスクを取り扱うときの注意

フロッピーディスクがこわれると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次の点に注意して大切に取り扱いってください。

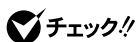
フロッピーディスクドライブには、 ていねいに奥まで静かに挿入して ください。 	ラベルは正しい位置に貼ってくだ さい。 	使用後は収納箱へ入れて保管して ください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、 保管は避けてください。 汚れたフロッピーディスクの使用 は避けてください。 	鉛筆での記入や消しゴムの使用は 避けてください。 	シャッターは開けないでください。 
フロッピーディスクの上にもものを のせないでください。 	直射日光の当たる場所や暖房器具 の近くなど、温度が高くなる場所 に置かないでください。 	飲食、喫煙しながらの使用は避け てください。 
溶剤類、飲み物等はフロッピーデ ィスクに近づけないでください。 	フロッピーディスクに磁石などを 近づけないでください。 	クリップ等ではさんだり、投げた り、落としたりしないでください。 

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB		
2HD	1.2MB		×
	1.44MB		

MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使用できます。



チェック!

1.2MBのフロッピーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップが取れません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です。)

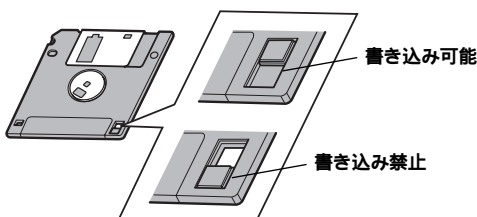


1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



フロッピーディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのフロッピーディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

フォーマットの手順

- 1 フロッピーディスクをドライブにセット
- 2 Windows 98のデスクトップで「マイコンピュータ」をダブルクリック、または「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリック
- 3 「3.5インチFD」をクリック
- 4 「ファイル」→「フォーマット」を選択する
- 5 「フォーマット」の画面が表示されたら、「通常のフォーマット」を選択し「開始」ボタンをクリック
- 6 「フォーマット結果」が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック
- 7 「フォーマット」の画面で「閉じる」ボタンをクリック



チェック!

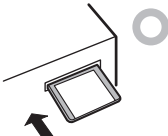
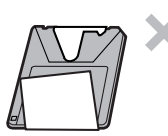
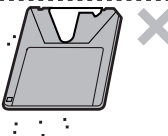
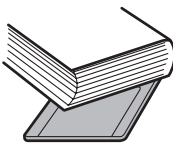
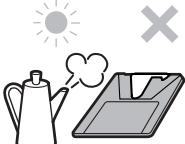
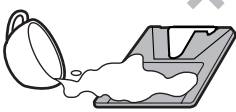
- ・未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつかばなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
- ・マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピーディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。

スーパーディスクドライブ

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、従来のフロッピーディスクに加えて、120MBの記憶容量を持つスーパーディスクが使用できます。

スーパーディスクを取り扱うときの注意

スーパーディスクがこわれると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次の点に注意して大切に取り扱いってください。「フロッピーディスクを取り扱うときの注意」(P.62)もあわせてご覧ください。

スーパーディスクドライブには、ていねいに奥まで静かに挿入してください。 	ラベルは正しい位置に貼ってください。 	使用後は収納箱へ入れて保管してください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。汚れたスーパーディスクの使用は避けてください。 	鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。 	シャッターは開けないでください。 
スーパーディスクの上にものをのせないでください。 	直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。 	飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。 
溶剤類、飲み物等はスーパーディスクに近づけないでください。 	スーパーディスクに磁石などを近づけないでください。 	クリップ等ではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。 

使用できるディスク

本機では、2DD、2HDの2種類のフロッピーディスクと、スーパーディスクが使用できます。本機で読み書きおよびフォーマットできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
フロッピーディスク 2DD	640KB	×	×
	720KB		
フロッピーディスク 2HD	1.2MB		×
	1.44MB		
スーパーディスク	120MB		

MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使用できます。



チェック!!

- ・スーパーディスクドライブに1.2Mバイトでフォーマットされたフロッピーディスクをセットして、1.44Mバイトでフォーマットする場合、エラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」の「MS-DOSプロンプト」をクリックし、MS-DOSプロンプトを起動させ、次のように入力してください。

FORMAT A: /F:1.44【ENTER】

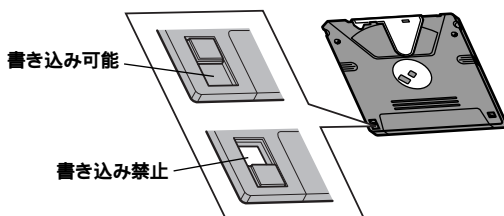
- ・1.2Mバイトのフロッピーディスクおよびスーパーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップが取れません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)



1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



このイラストはスーパーディスクのものです。

ディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスク、スーパーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

フォーマットの手順

1 ディスクをドライブにセットする

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリック

3 キーボードから次のようにして【Enter】を押す
FORMAT スーパーディスクドライブ名：

✓**チェック!** スーパーディスクをフォーマットする場合は、FORMATコマンドにはオプションを付けしないでください。

4 画面の指示に従う



容量、フォーマットの種類は必要に応じて設定してください。詳しくは、“FORMAT /?”で表示されるヘルプをご覧ください。

非常時のディスクの取り出し

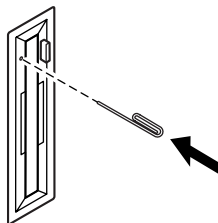
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✓ **チェック!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

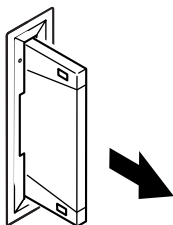
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2 スーパーディスクドライブの非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクが少し飛び出します。



- 3 ディスクを取り出す





CD-ROMドライブ

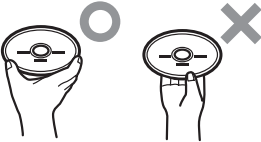
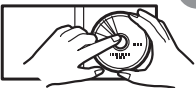
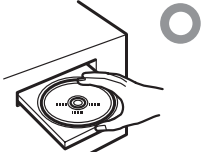
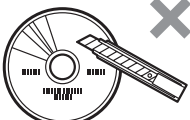
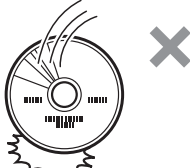
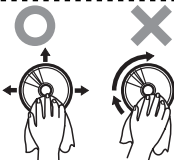
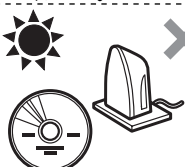
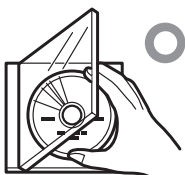
CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音楽用のCDを再生することもできます。

警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。

CD-ROMを取り扱うときの注意

CD-ROMがこわれないように、次の点に注意して大切に扱ってください。

信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。 	ケースの中央を押しながら取り出ししてください。 	文字の書かれている面が見えるように、CDトレイに正しい向きにはめ込んでください。 
CD-ROMの上にものをせたり曲げないでください。 	ラベルなどを貼らないでください。 	文字などを書く場合は、レーベル面にフェルトペンなどを使ってキズがつかないように書いてください。 
落として強い衝撃を与えたり、キズを付けないでください。 	指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に付けてふいてください。 	掃除の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使わないでください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。 	直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。 	使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。 

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠した下記のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。



省スペース型を使用する場合、8センチCDはご利用になれません。

規 格	概 要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-DA (CD-Digital Audio)	一般の音楽CD プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された、動画用のCD-ROM
CD-I (CD-Interactive media)	マルチメディアシステムを実現するために提案された規格 再生用のソフトウェアやハードウェアまでを含めて規格されている
CD Extra (CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-G (CD-Graphic)	カラオケ用CDなどに使用される音楽CDの規格。歌詞や簡単な絵などの表示もできる
CD-R (CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW (CD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM 1000回もの書き換え/消去が可能

添付されているプレーヤ-NXで再生・表示できます。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「プレーヤ-NX」

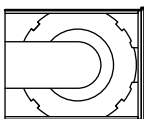
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)



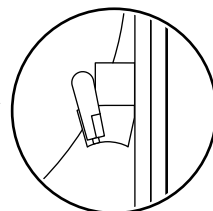
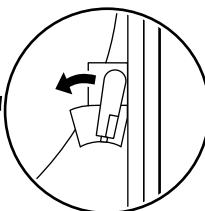
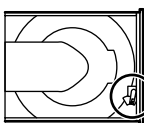
CD-ROMのセットは、電源を入れてから行ってください。

- 1 ディスクトレイジェクトボタンを押す
トレイが出てきます。
- 2 CD-ROMをトレイに置く
文字が書かれている面が見えるように置いてください。
- 3 ディスクトレイのツメを出す
ツメには下記のようなタイプがあります。

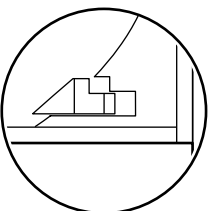
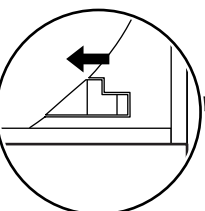
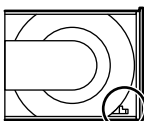
固定タイプ



一つタイプA



一つタイプB



- 4 ディスクトレイジェクトボタンを押す
ディスクトレイジェクトボタンは、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

非常時のディスクの取り出し

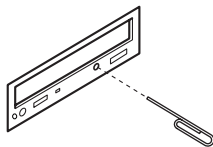
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

- ✓ **チェック!**
- ・本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
 - ・省スペース型をご利用の場合、筐体カバーを取り外した後で作業を行ってください。筐体カバーの取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

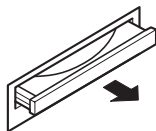
- 1** 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



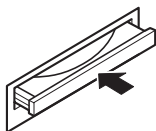
- 2** 非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3** ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4** ディスクトレイをドライブの中に押し込む





CD-RWドライブ

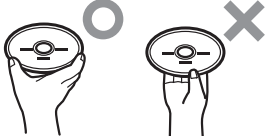
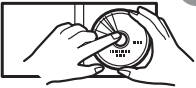
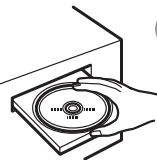
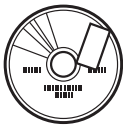
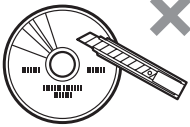
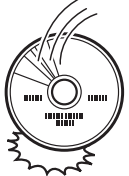
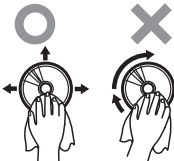
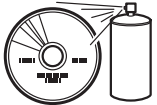
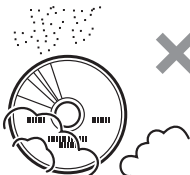
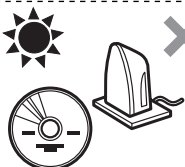
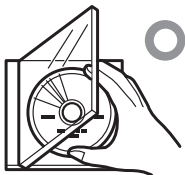
CD-RW(Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-RW対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

CD-RおよびCD-RWを取り扱うときの注意

CD-RまたはCD-RWがこわれないように、次の点に注意して大切に扱ってください。「CD-ROMを取り扱うときの注意 (P.71)」もご覧ください。

信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。 	ケースの中央を押しながら取り出してください。 	文字の書かれている面が見えるように、CDトレイに正しい向きにはめ込んでください。 
CD-RWの上にものをせたり曲げないでください。 	ラベルなどを貼らないでください。 	文字などを書く場合は、レーベル面にフェルトペンなどを使ってキズがつかないように書いてください。 
落として強い衝撃を与えたり、キズを付けないでください。 	指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてふいてください。 	掃除の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ペンジン、シンナーなどは、使わないでください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。 	直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。 	使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。 

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-RWドライブでは、ISO9660に準拠した下記のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。

規 格	概 要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-DA (CD-Digital Audio)	一般の音楽CD プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された、動画用のCD-ROM
CD-I (CD-Interactive media)	マルチメディアシステムを実現するために提案された規格 再生用のソフトウェアやハードウェアまでを含めて規格されている
CD Extra (CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-G (CD-Graphic)	カラオケ用CDなどに使用される音楽CDの規格。歌詞や簡単な絵などの表示もできる
CD-R (CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW (CD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM 1000回もの書き換え/消去が可能

CD-ROMドライブ同様、添付されているプレーヤ-NXで再生・表示できます。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「プレーヤ-NX」

CD-RおよびCD-RWへのフォーマットおよび書き込み

本機に内蔵されているCD-RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能が加わったものです。

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book PartⅡ(CD-R)およびPartⅢ(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。

書き込みできる容量は、ライティングソフトによって異なります。詳しくは、Easy CD Creator LiteおよびDirectCDのヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-RWドライブを使って、CD-RまたはCD-RWにフォーマット/書き込みするには、Easy CD Creator LiteまたはDirectCDが必要です。

使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Easy CD Creator Lite」または「DirectCD」をご覧ください。



チェック!!

- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピーの作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からのコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

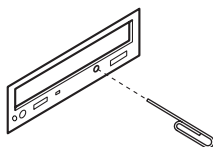
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✓ **チェック!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

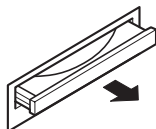
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



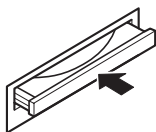
- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む



サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器などから再生することができます。

 **チェック!!** MA40H/Sをご利用の場合、再生には外付けスピーカが必要です。

音量の調節

音量の調節には下記の方法があります。下記の方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

内蔵スピーカボリューム

本体の内蔵スピーカボリュームを右へ回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。省スペース型だけにあります。

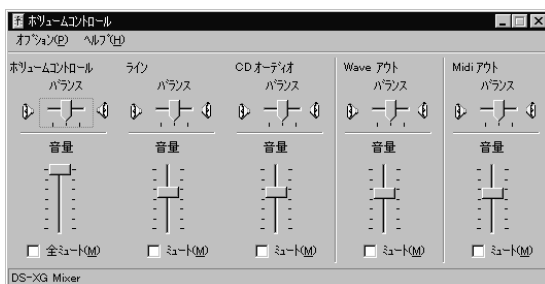


■ MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C、MA40H/C、MA40H/L



ボリュームコントロール

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



表示される画面はモデルにより異なります。
詳しい使い方についてはWindows 98のヘルプをご覧ください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。



MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S

本体に内蔵している100BASE-TX/10BASE-Tコネクタを使用しない場合は、BIOSセットアップメニューの「詳細」の「内蔵LAN」の設定を「使用しない」にしてください。また、「使用しない」に設定した場合はリンクケーブルを接続しないでください。



「PART2 システム設定」詳細の設定 (P.109)

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。



「PART3 付録」機能一覧 (P.130)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。



チェック!!

本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

LANの設定

ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。詳しくは『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力
- 7 「OK」ボタンをクリック



チェック!

設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

ネットワークパスワードの変更について

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワード」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で「Micorsoftネットワーク」を選択し、「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

- 「Microsoftネットワーククライアント」で「Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX通信機能、データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。

参考 ATコマンドについて→付録「ATコマンド」(P.144)

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ Microsoft Windows 98のハイパーターミナル
- その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX通信機能

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。
また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。

送受信: 300/1,200/2,400/4,800/7,200/9,600/12,000/14,400/
16,800/19,200/21,600/24,000/26,400/28,800/31,200/
33,600bps

受信のみ: 28,000/29,333/30,666/32,000/33,333/34,000/34,666/
36,000/37,333/38,000/38,666/40,000/41,333/42,000/
42,666/44,000/45,333/46,000/46,666/48,000/49,333/
50,000/50,666/52,000/53,333/54,000/54,666/
56,000bps

FAX: 300/2,400/4,800/7,200/9,600/12,000/14,400bps

FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます)総合デジタル通信網(ISDN)、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

→「技術基準等適合認定について」(P.v)

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

- ・コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- ・FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。
- ・FAXモデムボードに接続できる回線は2線式のみです。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『メンテナンス＆サポートのご案内』NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です（→付録 ATコマンド（P.144））。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者（NTTなど）に確認してください。
- ・ 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話機は2線式の回線用のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信/受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア（RTS/CTS）（工場出荷時の設定）に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・ FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9600bps以下にしてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

- ・ K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

COMポートの設定について

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのポート番号は、工場出荷時の状態ではCOM2が割り当てられています。通常はこのままご使用ください。



チェック!!

FAXモデムボードが標準で搭載されているMA40H/Sの場合は、ポート番号の変更はできません。

ポート番号を変更するときは次の手順で変更してください。

- 1** 起動している通信アプリケーションをすべて終了する
- 2** 「スタート ボタン」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3** 「システム」をダブルクリック
「システムプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「デバイスマネージャ」タブをクリック
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。
- 5** 「モデム」をダブルクリックし、表示された「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(BUQD)」をクリック(反転表示)
- 6** 「プロパティ」をクリック
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(BUQD)」のプロパティウィンドウが表示されます。
- 7** 「リソース」タブをクリック
- 8** 「自動設定を使う」のチェックボックスを外す
- 9** 「リソースの種類」にある「I/Oの範囲」をダブルクリック
「I/Oの範囲」は2項目あります。上の方「8バイト使用」を選択してください。

10 値を変更する

COM1の場合	: 03F8-03FF
COM2の場合	: 02F8-02FF
COM3の場合	: 03E8-03EF
COM4の場合	: 02E8-02EF

リソースが競合していないことを確認してください。
競合している場合、そのポートへの変更はできません。
赤外線デバイスを使用している場合、指定したポートへの変更ができない場合があります。

11 「OK」ボタンをクリック

「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(BUQD)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

12 「OK」ボタンをクリック

「変更不可の環境設定の作成」ウィンドウが表示されます。

13 「はい」をクリック

しばらくすると、「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。

14 「閉じる」ボタンをクリック

15 Windowsを再起動する

以上で、ポート番号の変更は終了です。



Mate NXセキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、障害管理、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブを使用できないようにする(ロックする)(I/Oロック)
- ・ メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させないようにする。(筐体ロック)
- ・ 一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン機能)
- ・ ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する。(DMITool)
- ・ ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。(DMITool)

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

BIOS LOCK

BIOSレベルで本機の利用者を限定し、本機の起動を制限します。これにより、コンピュータウイルスやデータ改ざんなどからパソコンを守ります。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」の「セキュリティの設定」(P.116)

BIOS LOCKには、次の方法があります。

■ パスワードを設定する

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の利用者を制限するとともに、本機の利用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「起動時のパスワード」を「使用する」に設定してください。

■ 指紋認証を利用する

本体の起動時やパスワードの入力を要求される場合、別売の指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002〕を利用して指紋を照合することで、ユーザーの利用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。

MA40H/S、MA40H/Lではご利用になれません。

■ スマートカードを利用する

別売のスマートカードリーダー/ライター〔PK-SM001〕とスマートカード発行ツール〔PK-SM002〕、スマートカード〔PK-SM003〕を利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけで個人認証をすることができます。

MA40H/S、MA40H/Lではご利用になれません。

参照 ▶ スマートカード発行ツール〔PK-SM002〕に添付のマニュアル



チェック!

スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「起動時のパスワード」が「使用する」になっている場合、本機に接続ユニットが接続され、指紋認証のBIOSが設定されている場合、本機にスマートカードリーダーが接続され、スマートカードのBIOS LOCKを設定している場合、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するためには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「ネットワーク起動時の設定」の「BIOS LOCK」を「使用しない」にしなければなりません。

RSA SecurPC

RSA SecurPCとは、ファイルやフォルダをパスワード付きで暗号化し、データの漏洩防止やプライバシーを保護します。また、Windowsのログオン/ログオフ時にファイルやフォルダを暗号化/復号化したり、暗号化したファイルを電子メールなどで相手に送信したときもパスワードを入力するだけで復号化できます。

 参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「RSA SecurPC」

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O（フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、シリアルポート、パラレルポートなど）を利用できないようにする機能です。

この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを防止することができます。

 参照 「PART2 システム設定」I/Oロック（P.119）

筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体のハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止に役立てることができます。

また、市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することで、本体の開閉や盗難防止にも役立てることができます。



MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S、MA40H/S

デスクトップモデルをご利用の場合、セキュリティプレートを取り付けることで本体カバーをロックすることができます。セキュリティプレートの取り付けについては『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

ルーフカバーオープン検知

カバーセンサにより、ルーフカバーの開閉を検知します。開閉が検知された場合は、DMIToolにより通知されます。メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査してください。

MA40H/Lではご利用になれません。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「DMITool」

運用管理機能

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「CyberAccess」

ネットワークブート

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0により、以下の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。

MA40H/Lではご利用になれません。

- ・ OSのセットアップ
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

参照 「PART2 システム設定」BIOSセットアップメニューについて (P.100)

一括ファイル配信

管理者PCからリモート操作で、複数のクライアントPCに対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。別売のESMPRO/DeliveryManagerが必要です。

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはDMITOOlからのリモートパワーオンのコマンド指示を受けると、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信するパソコンにはDMITOOlの設定が、パワーオンメッセージを受信するパソコンにはBIOSの設定が必要です。



DMITOOl → 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「DMITOOl」
BIOSの設定 → 「PART2 システム設定」起動の設定 (P.125)



チェック!!

- ・リモートパワーオン機能はACPIモードでは使用できません。APMモードでのみ使用できます。
- ・前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、Windows 98を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。
- ・MA40H/Sをご利用の場合、電源が切れている状態で電源ケーブルをコンセントから抜いたり、停電が発生した場合は、一度手動で本機を起動し、正しい方法で電源を切ってからご利用ください。

リモートコントロール

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「pcANYWHERE32 EX」

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作()を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに下記のDMITOOl(別売)または「pcANYWHERE (Symantec社製)が必要です。MA40H/Lではご利用になれません。

製品名:DMITOOl(Ver6.1)「pcANYWHERE32 EX コンプリート版付」
製品型番:PS-NX9217-C3

または

製品名:DMITOOl(Ver7.1)「pcANYWHERE32 EX コンプリート版付」
製品型番:PS-NX9217-C4

アプリケーションによっては、できないものがあります。

プリブートマネジメント(Preboot Management)

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0および別売のESMPRO/PrebootManager Ver1.0により、電源を入れてからWindowsが起動するまでの間の障害を監視します。また、管理者PCからリモートでクライアントPCのBIOS設定値を変更できるので、Windows起動前のクライアントPCに対するリモートメンテナンスが可能です。MA40H/S、MA40H/Lではご利用になれません。

障害管理機能

本機には、次のような障害管理機能があり、異常を検出すると、DMIToolの状態監視機能へ異常を通知します。(機種により機能は異なります)

OFF state Alert II機能

本機の電源が切れている状態での筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜け等の異常を検出し、LANで接続された管理者側パソコンに通知します。また、オペレーティングシステムがハングアップした場合、LANで接続された管理者側パソコンに通知し、管理者側パソコンからリモートで電源を切ったり、再起動させることができます。なお、この機能を使用する場合、管理者側パソコンに下記の別売の製品をインストールする必要があります。

- ・ESMPRO/ClientManager Ver3.1(Windows 98/Windows NT版)

なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

MA40H/S、MA40H/C、MA40H/Lではご利用になれません。

SMART機能

ハードディスクドライブの異常を監視します。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T.(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup」との連携によってバックアップをとることができます。

MA40H/Lではご利用になれません。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

クライアントモニタリング

「DMITool」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が下記の別売の製品を利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

MA40H/Lではご利用になれません。

- ・ PCMANAGER Ver1.0



DMITool → 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「DMITool」

■ 資源管理

本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

■ 状態監視

筐体内温度、電圧、CPUファン監視機能から障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

ECCE (Error Correcting Code) 機能

メモリエラーを自動的に検出/訂正を行います。

MA40H/S、MA40H/C、MA40H/Lではご利用になれません。

ソフトウェアパワーOFF機能

Windows動作中に誤って電源ボタンに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「VirusScan」

ヘルプの表示方法

ここではヘルプの表示方法について説明します。Windows 98のヘルプの詳細は『Microsoft® Windows® 98ファーストステップガイド』第1章はじめに「情報の探し方」をご覧ください。

特定の操作手順についてのヘルプ

目次またはキーワードを入力して操作手順を探す

- 1 「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリック
- 2 ヘルプウィンドウ内の  または  をダブルクリック
 をダブルクリックすると、さらに細かな項目が表示されます。
 をダブルクリックすると、項目の内容を説明する画面が表示されます。

設定項目のヘルプ(画面に表示されている項目についてのヘルプ)

設定方法がわからない場合に、ヘルプ画面を表示してその項目の説明を読むことができます。

設定項目に関する説明を表示する

- 1 ダイアログボックスのタイトルバーにある  アイコンをクリック
カーソルが  になります。
- 2 説明が必要な項目をクリック

 **メモ**

説明が必要な項目を選択して【F1】を押しても同様の画面が表示されません。

2

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニュー（MA40H/Sを除く）について説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

MA40H/Sをご利用の場合は、『本機をお使いの方へ』をご覧ください。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

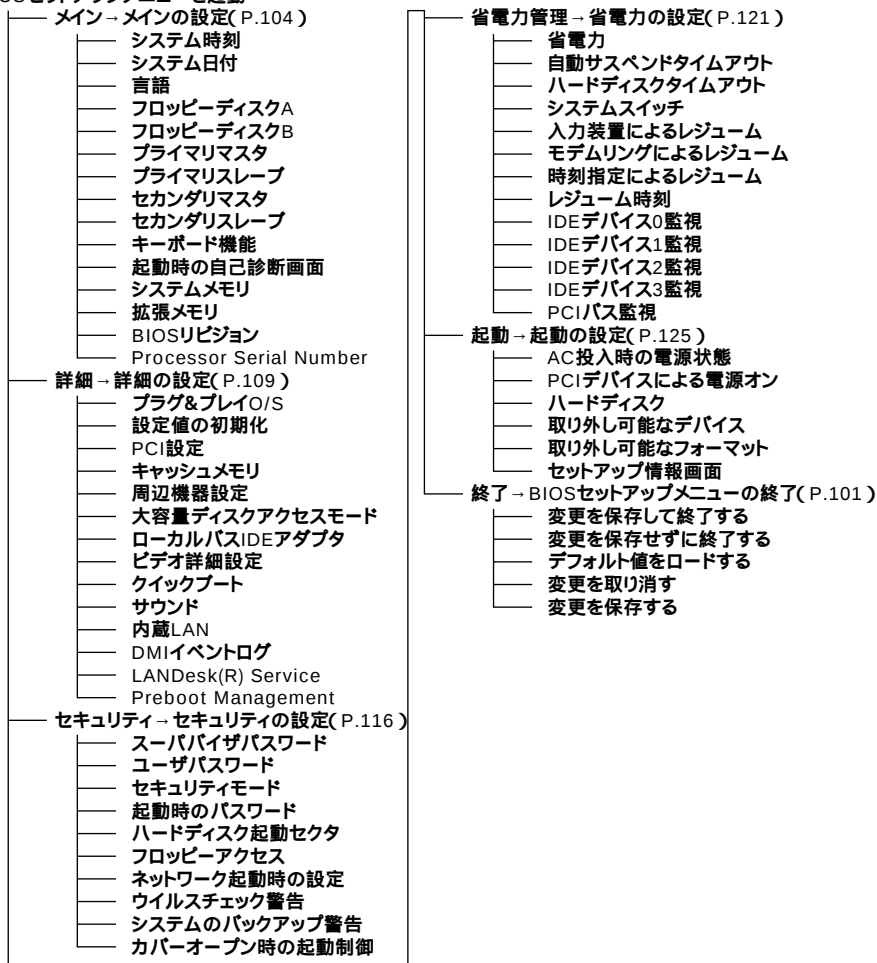
BIOSセットアップメニューについて	100
メインの設定	104
詳細の設定	109
セキュリティの設定	116
省電力の設定	121
起動の設定	125

BIOS セットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの構造

BIOSセットアップメニューを起動



BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「F2 : BIOSセットアップメニューを起動します、F12 : ネットワークブートします。」と表示されたら、【F2】を押す
以下の画面が表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ				
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動 終了
システム時刻 : [hh:mm:ss] システム日付 : [yyyy/mm/dd] 言語 : [日本語(JP)] フロッピーディスクA : [1.44/1.25Mb 3.5"] フロッピーディスクB : [使用しない] ▶プライマリマスタ : [××××MB] ▶プライマリスレーブ : [なし] ▶セカンダリマスタ : [CD-ROM] ▶セカンダリスレーブ : [なし] ▶キーボード機能 起動時の自己診断画面 : [使用しない] システムメモリ : 640KB 拡張メモリ : ××KB BIOSリビジョン : ××××××××				メニューバー
項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter> キーは、項目を選択します。				パラメータ
F1 ヘルプ ↑ ↓ 項目の選択 - / + 値の変更 F9 デフォルトの設定 Esc 終了 ← → メニューの選択 Enter ▶サブメニューの選択 F10 保存して終了				キーステータスバー

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「終了」の選択項目

選択項目	説明
変更を保存して終了する	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
変更を保存せずに終了する	変更した設定を保存せずに終了します。
デフォルト値をロードする	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。
変更を取り消す	変更前の値に戻します。
変更を保存する	変更した値を保存します。

設定を保存して終了する

■ メニューバーの「終了」で終了する場合

- 1** 「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】を押す
- 2** 「設定の変更を保存して終了しますか？」と表示されるので、【Enter】を押す

■ 【F10】を押して終了する場合

- 1** 【F10】を押す
- 2** 「設定の変更を保存して終了しますか？」と表示されるので、【Enter】を押す

設定を保存せずに終了する

■ メニューバーの「終了」で終了する場合

- 1** 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】を押す
- 2** 「設定が保存されていません!保存してから終了しますか？」と表示されるので、「いいえ」を選択して【Enter】を押す

工場出荷時の設定値に戻す

BIOSセットアップメニューの内容を、工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

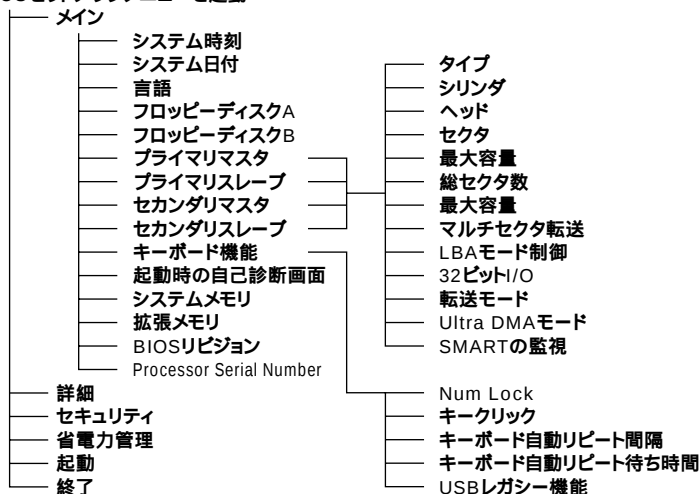
- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します、F12 :ネットワークブートします。」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「セットアップ確認」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」を選択する
デフォルト値(工場出荷時の設定値)を読み込みます。
- 5 【F10】を押す
- 6 「はい」を選択する
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

メインの設定

メインの構造

BIOSセットアップメニューを起動



メインの設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、スーパーバイザパスワードで起動した場合のみ変更可能です。

- システム時刻()
現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。
- システム日付()
日付を「年/月/日」で入力します。
- 言語()
BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「日本語」に設定されています。

● フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。

スーパーディスクドライブが工場出荷時に搭載されているモデルは「使用しない」に設定されています。

フロッピーディスクドライブが工場出荷時に搭載されているモデルおよびNetPCモデルは「1.44 / 1.25 MB 3.5"」に設定されています。

設定項目	設定内容
フロッピーディスクA	使用しない
	360KB 5.25"
	1.2MB 5.25"
	720KB 3.5"
	1.44 / 1.25 MB 3.5"
	2.88MB 3.5"

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

● フロッピーディスクB

フロッピーディスクAの設定と同じです。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。本項目が表示されない機種もあります。

● プライマリマスタ ()

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面となります。



チェック!!

- ・本項目の設定は変更しないでください。
- ・本機に搭載されている内蔵固定ディスクの容量を確認したい場合は、BIOS セットアップメニューの「メイン」→「プライマリマスタ」のサブメニューを開き、「LBAフォーマット」の「最大容量」を参照してください。

設定項目	設定内容	説明
タイプ	自動	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。
32ビットI/O	使用しない / 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

- **プライマリスレーブ()**
プライマリマスタの設定と同様です。
3.5インチベイに増設されるIDE機器の設定画面となります。
- **セカンダリマスタ()**
プライマリマスタの設定と同様です。
CD-ROMドライブ、またはCD-RWドライブの設定画面となります。
NetPCモデルの場合は、設定する項目はありません。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

- **セカンダリスレーブ()**
プライマリマスタの設定と同様です。
5インチベイに増設されるIDE機器の設定画面となります。スーパーディスクドライブが搭載されているモデルでは、スーパーディスクドライブの設定画面となります。

 **チェック!!** 本項目の設定は変更しないでください。

- キーボード機能

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Num lock	自動 / オン/オフ	起動時にNum lockをオンにするかどうかを設定します。
キークリック	使用しない / 使用する	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
キーボード自動リピート間隔	30 / 秒、26.7 / 秒、21.8 / 秒 18.5 / 秒、13.3 / 秒、10 / 秒 6 / 秒、2 / 秒	キーリピート間隔を設定します。
キーボード自動リピート待ち時間	1 / 4秒、1 / 2秒、3 / 4秒 1秒	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
USBレガシー機能	使用する / 使用しない	「使用する」を選択するとUSBレガシー機能を有効にします。工場出荷時は、「使用する」に設定されています。Windows NTでPS/2キーボードを使用する場合は、「使用しない」に、USB109キーボード、USB小型キーボードを使用する場合は、「使用する」に設定してください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

- 起動時の自己診断画面

起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「使用しない」に設定すると起動時間が短くなります。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

- システムメモリ

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

- 拡張メモリ

搭載されている拡張メモリを表示します。



システムメモリと拡張メモリを合計した値がメモリ(メインRAM)の容量となります。

- BIOSリビジョン

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

- Processor Serial Number

Pentium®IIIプロセッサの「Processor Serial Number」機能を設定します。「使用しない」に設定するとProcessor Serial Numberを無効にします。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

MA40H/S、MA40H/C、MA40H/Lをご利用の場合は、本項目は表示されません。

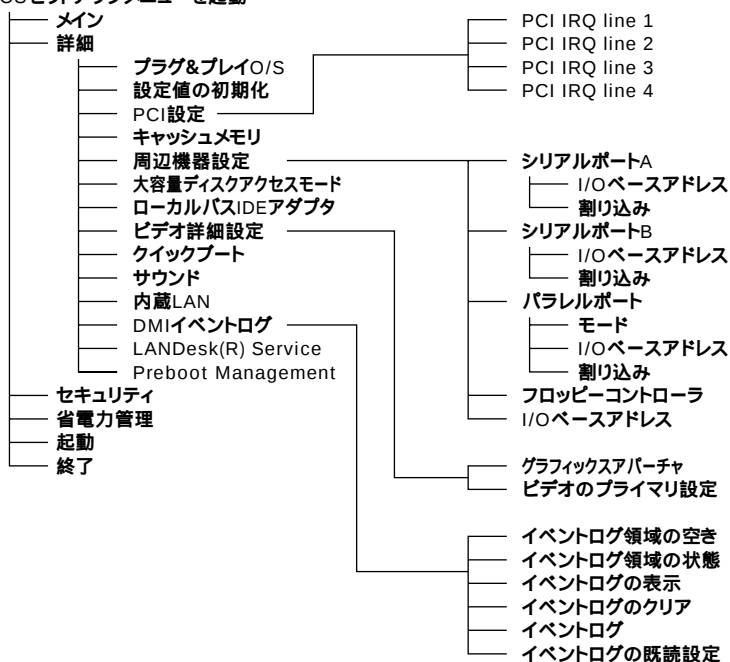
詳細の設定

2

システム設定

詳細の構造

BIOSセットアップメニューを起動



詳細の設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- プラグ&プレイO/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合には、「はい」を選択します。工場出荷時は「はい」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の場合は「いいえ」に設定してください。

- 設定値の初期化

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「する」を選択します。工場出荷時は「しない」に設定されています。ただし、「する」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「しない」に戻ります。

- PCI設定

各PCIデバイスの割り込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	使用しない/自動選択/ 3/4/5/7/9/10/11/12/ 14/15	PCI IRQ line 1で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	使用しない/自動選択/ 3/4/5/7/9/10/11/12/ 14/15	PCI IRQ line 2で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	使用しない/自動選択/ 3/4/5/7/9/10/11/12/ 14/15	PCI IRQ line 3で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 4	使用しない/自動選択/ 3/4/5/7/9/10/11/12/ 14/15	PCI IRQ line 4で使用するIRQ番号を設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

PCI設定の設定項目と本機のPCIスロットは、次のように対応しています。

PCI設定の設定項目	ミニタワー型	デスクトップ型	省スペース型
PCI IRQ line 1	PCIスロット#1、 PCIスロット#5	PCIスロット#1	LANボードまたはFAXモデムボード専用スロット
PCI IRQ line 2	PCIスロット#2	PCIスロット#2	PCIスロット#1
PCI IRQ line 3	PCIスロット#3	PCIスロット#3	PCIスロット#2
PCI IRQ line 4	PCIスロット#4	_____	_____

● キャッシュメモリ

本項目の設定は変更しないでください。

● 周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポートA (シリアルコネクタ またはシリアルコネクタ1)	使用しない	シリアルポートAは使用できません。
	使用する	ユーザがI/Oベースアドレスと割り込み番号を設定することができます。
	自動	BIOSがI/Oベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイに対応したOSがI/Oベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
I/Oベースアドレス	3F8/2F8/3E8/2E8	シリアルポートAにI/Oベースアドレスを指定します。
割り込み	IRQ3/IRQ4	シリアルポートAに割り込み番号を設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポートB (シリアルコネクタ2)	シリアルポートAと同様です。	工場出荷時は「使用しない」に設定されています。省スペース型をご利用の場合は表示されません。
パラレルポート (パラレルコネクタ)	使用しない	パラレルポートは使用できません。
	使用する	ユーザがパラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割込み番号を設定することができます。
	自動	BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
	PnP OS	プラグ&プレイに対応したOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	出力のみ / 双方向 / ECP	パラレルポートにモードを設定します。
I/Oベースアドレス	378 / 278 / 3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。
割込み	IRQ5 / IRQ7	パラレルポートに割込み番号を設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない / 使用する / 自動	フロッピーディスクドライブを使用する場合は「使用する」に設定します。工場出荷時の設定値は、フロッピーディスクドライブを搭載したモデルおよびNetPCモデルの場合は「使用する」、スーパーディスクドライブを搭載したモデルの場合は「使用しない」です。
I/Oベースアドレス	プライマリ / セカンダリ	オプションのフロッピーディスクドライブのI/Oベースアドレスを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- 大容量ディスクアクセスモード
本項目の設定は変更しないでください。
- ローカルバスIDEアダプタ
内蔵用のIDEアダプタを使用するかどうかを設定します。工場出荷時は「両方」に設定されています。
- ビデオ詳細設定
使用するビデオの設定を行います。

設定項目	設定内容	説明
グラフィックスアパーチャ	4Mb/8Mb/16Mb/ 32Mb/64Mb/128Mb/ 256Mb	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックアパーチャサイズを設定します。
ビデオのプライマリ設定	AGP/PCI	使用するビデオデバイスを選択します。PCIスロットにビデオカードが増設されていない場合は[PCI]に設定してもAGPが有効になります。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- クイックブート
「使用する」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「使用する」に設定されています。
- サウンド
サウンドのリソースを設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。本項目がない機種もあります。

設定項目	設定内容	説明
サウンド	使用しない	サウンドを切り離します。
	使用する	サウンドが使用できます。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

- 内蔵LAN

「使用しない」を設定すると内蔵LANを切り離します。「使用しない」に設定した場合は、リンクケーブルを接続しないでください。本項目は、MA55J/S、MA50J/S、MA45J/Sをご利用の場合に表示されます。

- DMIイベントログ

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
イベントログの表示	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログの内容を表示します。
イベントログのクリア	いいえ/はい	「はい」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
イベントログ	使用する/使用しない	「使用する」を選択するとDMIイベントログを記録します。
イベントログの既読設定	はい/いいえ	【Enter】を押し、「はい」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

網かけの部分 ☐ は、工場出荷時の設定値です。



DMI (Desktop Management Interface) とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

- LANDesk(R)Service ()

本体BIOSに標準搭載しているLANDeskService機能の設定を行います。工場出荷時は「使用する」に設定されています。



チェック!!

LANDesk(R)Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0が必要です。

- Preboot Management()

Preboot Management機能の設定を行います。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。



チェック!!

Preboot Management機能を使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0およびESMPRO/PrebootManager Ver1.0が必要です。

参照

「PART1 本体の構成各部」の「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」(P.90)

セキュリティの設定

セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

- スーパバイザパスワード
スーパバイザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
スーパバイザパスワード 設定	設定	スーパバイザパスワードが設定されています。
	クリア	スーパバイザパスワードが設定されていません。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

- ユーザパスワード()
ユーザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
ユーザパスワード設定	設定	ユーザパスワードが設定されています。
	クリア	ユーザパスワードが設定されていません。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。「システム設定」の設定項目の右側に「」マークが付いている項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。また、「起動時のパスワード」を「使用する」にすることで本機の使用者を制限することができます。

- セキュリティモード

セキュリティモードを選択します。「パスワード」と「スマートカード」と「指紋」が選択できます。工場出荷時は「パスワード」に設定されています。

- 起動時のパスワード

本機の起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。「セキュリティモード」を「パスワード」に設定した場合に表示されます。リモートパワーオン機能を利用するときは、「ネットワーク起動時の設定」の「BIOS LOCK」を「使用しない」に設定します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

- ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかの設定を行います。

「書き込み禁止」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「通常動作」に設定されています。

- フロッピーアクセス

「スーパーバイザ」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブに対してアクセスできなくなります。ただし、スーパーディスクドライブへのアクセスは制限できません。工場出荷時は「スーパーバイザ」に設定されています。

● ネットワーク起動時の設定()

この項目にカーソルを合わせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
キーボード/マウス ロック	使用する / 使用しない	「使用する」を選択すると、リモート(PME)起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	使用する / 使用しない	「使用しない」を選択すると、「起動時のパスワード」、スマートカード、指紋認証が設定されていてもリモート(PME)起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合、もしくはスマートカードを接続した場合に表示されます。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。



チェック!! ここでのリモート(PME)起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPCをリモートにより起動することを指します。



参照 リモート(PME)→「PART1 本体の構成各部」の「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能(P.90)」

● ウイルスチェック警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週」、「毎月」の中から選択します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

● システムのバックアップ警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週」、「毎月」の中から選択します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

- カバーオープン時の起動制御

「使用する」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。



I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。

BIOSセットアップメニューで以下の設定を行うことによってI/Oロックを有効にすることができます。

- ・ FDDインターフェースのロック方法
フロッピーディスクドライブを使用できなくします。
メニューバーの「メイン」→「フロッピーディスクA」→「使用しない」
メニューバーの「詳細」→「周辺機器設定」→「フロッピーコントローラ」→「使用しない」
- ・ IDEインターフェース(プライマリマスタ/スレーブ)のロック方法
工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブや3.5インチベイに増設されるIDE機器を使用できなくします。
メニューバーの「詳細」→「ローカルバスIDEアダプタ」→「使用しない」
もしくは「セカンダリ」
- ・ IDEインタフェース(セカンダリマスタ/スレーブ)のロック方法
CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ、またはスーパーディスクドライブを使用できなくします。
メニューバーの「詳細」→「ローカルバスIDEアダプタ」→「使用しない」
もしくは「プライマリ」
- ・ シリアルポートAのロック方法
シリアルコネクタ、またはシリアルコネクタ1を使用できなくします。
メニューバーの「詳細」→「周辺機器設定」→「シリアルポートA」→「使用しない」
- ・ シリアルポートBのロック方法
シリアルコネクタ2を使用できなくします。本項目はモデルにより表示されません。
メニューバーの「詳細」→「周辺機器設定」→「シリアルポートB」→「使用しない」

- ・ パラレルポートのロック方法

パラレルコネクタを使用できなくします。

メニューバーの「詳細」→「周辺機器設定」→「パラレルポート」→「使用しない」

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード、ユーザパスワードの設定、スマートカードリーダーまたは指紋認証ユニットの接続により制限することができます(BIOS LOCK)。もし設定したこれらのパスワードを忘れてしまったり、キーとなるスマートカードをなくしてしまった場合のBIOS LOCKの解除方法については、『ハードウェア拡張ガイド』PART4 付録の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。



チェック!

無断でパスワードを解除することを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.92)

省電力の設定

省電力管理

本機の省電力管理設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

● 省電力()

パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を停止します。
	カスタマイズ	自動サスペンドおよびハードディスクタイムアウト時間をユーザ自身で選択できます。
	最大省電力 注	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 自動サスペンドタイムアウト:5分 ハードディスクタイムアウト:1分
	性能優先	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 自動サスペンドタイムアウト:60分 ハードディスクタイムアウト:15分

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

注 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

- 自動サスペンドタイムアウト()

本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は「オフ」に設定されています。「システムスイッチ」が「パワースイッチ」に設定されている場合もスタンバイします。

- ハードディスクタイムアウト()

ハードディスクの電源が切れるまでのハードディスクにアクセスのない状態の時間を設定します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。



チェック!! 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

- システムスイッチ()

システムスイッチは、本体前面にある電源スイッチを電源スイッチ(パワーボタン)またはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。

電源の管理モード(APMモード/ACPIモード)により、次のようになります。工場出荷時の設定は、電源の管理モードが「APMモード」、システムスイッチが「パワーボタン」に設定されています。

- APMモードの場合

- ・「パワーボタン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スリープボタン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

- ACPIモードの場合

システムスイッチの設定は無効になり、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「電源管理」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になり、次のようになります。ACPIモードに変更直後は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」は「シャットダウン」に設定されています。

- ・「シャットダウン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スタンバイ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

システムスイッチの設定を「パワーボタン」(工場出荷時の設定)から「スリープボタン」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」→「電源を切れる状態にする」→「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

■ 方法1

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

■ 方法2

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

- 入力装置によるレジューム()
「オン」に設定すると入力デバイスによるレジュームを有効にします。工場出荷時は「オン」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の場合は「オフ」に設定してください。
- モデムリングによるレジューム()
「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。工場出荷時は「オフ」に設定されています。

- 時刻指定によるレジューム()
「オン」に設定すると、レジューム時刻設定時間で本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「オフ」に設定されています。
- レジューム時刻()
レジュームする時刻を設定します。
- IDEデバイス0監視()
「使用する」に設定するとIDEデバイス0(プライマリマスタ、工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。
- IDEデバイス1監視()
「使用する」に設定するとIDEデバイス1(プライマリスレーブ、3.5インチベイに増設されるIDE機器)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。
- IDEデバイス2監視()
「使用する」に設定するとIDEデバイス2(セカンダリマスタ、CD-ROMドライブ、またはCD-RWドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。
- IDEデバイス3監視()
「使用する」に設定するとIDEデバイス3(セカンダリスレーブ、スーパーディスクドライブ)が搭載されているモデルはスーパーディスクドライブが動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。
- PCIバス監視()
「使用する」に設定するとPCIバスが動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

設定項目	設定内容	説明
バスの使用頻度	0～255	256クロックサイクル期間に検出されるデータフェーズ数を設定します。0から255までの値が設定できます。
バスの占有時間率	0～100	スタンバイタイマをリロードするためのバスの占有時間率を設定します。0から100までの値が設定できます。

起動の設定

電源の設定

AC電源投入時の電源状態や、PCIデバイスにより電源を入れるための設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動した場合のみ変更可能です。

- AC投入時の電源状態()

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説明
AC投入時の電源状態	オフ	AC投入時に電源がオン(電源は入らない)しない。
	オン	AC投入時に電源がオン(電源が入る)する。
	自動	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態で、AC電源が切れた場合には電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合には電源は入りません。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

- PCIデバイスによる電源オン()

PCIデバイス(LANボード等)による電源オンおよびレジュームを有効にします。

リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「する」に設定します。工場出荷時は「しない」に設定されています。



電源オンとは、電源を入れることです。
電源オフとは、電源を切ることです。

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

設定項目	設定内容	説明
1	[取外し可能デバイス]	本機を起動するデバイスの順番を決めます。起動順位1に指定したデバイスから順番に起動されます。
2	[ハードディスク]	
3	[ATAPI CD-ROM]	
4	[ネットワークブート]	
5	[LANDesk(R)Service]	

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を押すとリストの下側に移動します。

起動するデバイスは次の通りです。

- ・ 取外し可能デバイス ... 内蔵フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
- ・ ハードディスク 工場出荷時はプライマリマスタのハードディスクドライブ
- ・ ATAPI CD-ROM CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ
- ・ ネットワークブート ... LANボード
- ・ LANDesk(R)Service ... LANボード

複数のデバイスが存在する「ハードディスク」「取り外し可能なデバイス」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。

● ハードディスク()

本機は、起動順位1のハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの順序(1,2...)に従い検索を続けます。

- 取外し可能なデバイス()
この項目は、取外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブなどについて設定します。
オペレーティングシステムは、取外し可能なデバイスにドライブ名を割り当てます。
- 取外し可能なフォーマット(この項目はスーパーディスクドライブを搭載している装置のみ表示)()
取外し可能なデバイスに挿入されているメディアのフォーマットが、ハードディスクか、取外し可能デバイスかを設定します。
- セットアップ情報画面
「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	130
ATコマンド	144
割り込みレベル一覧	155
DMAチャネルの割り当て	160
本機のお手入れ	161

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧



MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA55J/M	MA50J/M	MA45J/M
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®IIIプロセッサ		
	クロック周波数	550MHz	500MHz	450MHz
	内蔵キャッシュメモリ	32KB		
	システムバス	100MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	512KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大768MB DIMMSロット×3		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応、3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB 一太郎9 & 1-2-3 2000モデル:約1,040MB(搭載するメモリの容量により異なります)		
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)		
	CD-RWドライブ	内蔵 読み出し最大24倍速 (CD-RWは最大8倍速)、書き込み最大4倍速(CD-Rは1倍・2倍・4倍速、CD-RWは2倍速固定)		

機種名		MA55J/M	MA50J/M	MA45J/M
インタ フェース	ディスプレイ			
	アナログRGB		アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
	デジタルRGB		デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP準拠デジタル20ピン	
	シリアル			
	コネクタ1		最大11,5200bps、D-sub9ピン	
	コネクタ2		最大11,5200bps、D-sub9ピン	
	パラレル		D-sub25ピン	
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)	
	サウンド関連	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db	
			ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
		出 力	ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)	
	通信関連			
	LANボード		RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能	
FAXモデムボード		電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		
入力関連				
USB109キーボード		キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
PS/2 109キーボード		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
PCIスロット[空き]		5スロット(フルサイズ×4、ハーフサイズ×1(LANボードで占有済)) [4]		
AGPスロット[空き]		1スロット(ウィンドウアクセラレータボードで占有済) [0]		
ファイル ベイ	3.5インチベイ[空き]		1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済) [0]	
	内蔵3.5インチベイ[空き]		2スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済) [1]	
	5インチベイ[空き]		3スロット(CD-ROMまたはCD-RWドライブで1スロット占有済) [2]	
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリ ティ/マネジ メント機能	運用管理機能		デスクトップ管理ソフトウェア「DMITOOl」、「pcANYWHERE32 EX」、「CyberAccess」標準添付	
	障害管理機能		SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能	
	セキュリティ機能		スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知	
環境条件	電源		AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件		10～35、20～80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時		約35W(最大約220W)	
	ススペンド状態時		約18W以下	
外形寸法	エネルギー消費効率		R区分 0.014	R区分 0.015
	本体		452(H)×440(D)×211(W)mm	
重量	キーボード			
	USB109キーボード		39(H)×178(D)×471(W)mm	
	PS/2 109キーボード		32(H)×163(D)×467(W)mm	
重量	本体		約16.1Kg	
	キーボード			
	USB109キーボード		約1.2Kg	
重量	PS/2 109キーボード		約650g	



MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA55J/S	MA50J/S	MA45J/S
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®IIIプロセッサ		
	クロック周波数	550MHz	500MHz	450MHz
	内蔵キャッシュメモリ	32KB		
	システムバス	100MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	512KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大512MB DIMMSロット×2		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応、3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェブテーブルシンセサイザー機能搭載		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB 一太郎9 & 1-2-3 2000モデル:約1,040MB (搭載するメモリの容量により異なります)		
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)		
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDS)、DFP準拠デジタル20ピン		
	シリアル			
	コネクタ1	最大11,5200bps、D-sub9ピン		
	コネクタ2	最大11,5200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
出力	ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)			
通信関連				
100BASE-TX/10BASE-T LANコネクタ	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能			
入力関連				
USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続			
PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続			

機種名		MA55J/S	MA50J/S	MA45J/S
PCIスロット[空き]		3スロット(フルサイズ×3) [3]		
AGPスロット[空き]		1スロット(ウィンドウアクセラレータボードで占有済) [0]		
ファイル ベイ	3.5インチベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済) [0]		
	内蔵3.5インチベイ[空き]	2スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済) [1]		
	5インチベイ[空き]	2スロット(CD-ROMドライブで1スロット占有済) [1]		
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリティ/ マネジ メント機能	運用管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITool」 ¹ 「pcANYWHERE32 EX」 ² 「CyberAccess」標準添付		
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能		
	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10～35℃、20～80% (但し結露しないこと)		
	消費電力	本体標準構成時 約33W(最大約170W) 約32W(最大約170W)		
外形寸法	サスペンド状態時	約16W以下		
	エネルギー消費効率	R区分 0.012	R区分 0.014	R区分 0.015
	本体	139.5(H)×394(D)×430(W)mm		
	キーボード			
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm		
重量	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm		
	本体	約8.8Kg		
	キーボード			
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	PS/2 109キーボード	約650g		



MA40H/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA40H/S		
CPU		Intel®Celeron™プロセッサ(400MHz)		
	内蔵キャッシュメモリ	32KB		
	システムバス	66MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	128KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大256MB DIMMSロット×2		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインメモリから10MB占有)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(AGP対応、DVMアーキテクチャ採用、3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、ソフトウェアサウンド機能		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
		出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB 一太郎9 & 1-2-3 2000モデル:約1,040MB (搭載するメモリの容量により異なります)	
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)		
インタフェース	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	シリアル	最大11,5200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	MIDI/Joystic	D-sub15ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
			出 力	ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)
通信関連				
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		
入力関連				
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		

機種名		MA40H/S
PCIスロット[空き]		3スロット(フルサイズ × 2、ハーフサイズ × 1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済))(2]
ファイル ベイ	3.5インチベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済)(0]
	内蔵3.5インチベイ[空き]	2スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済)(1]
	5インチベイ[空き]	2スロット(CD-ROMドライブで1スロット占有済)(1]
カレンダー時計		電池によるバックアップ
セキュリティ/マネジ メント機能	運用管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITool」「pcANYWHERE32 EX」「CyberAccess」標準添付
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPUファン監視
環境条件	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知
	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度条件	10 ~ 35 、20 ~ 80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体標準構成時	約45W(最大約165W)
	サスペンド状態時	約25W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.054
外形寸法	本体	139.5(H) × 394(D) × 430(W)mm
	キーボード	
	USB109キーボード	39(H) × 178(D) × 471(W)mm
	PS/2 109キーボード	32(H) × 163(D) × 467(W)mm
重量	本体	約8.3Kg
	キーボード	
	USB109キーボード	約1.2Kg
	PS/2 109キーボード	約650g



MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA55J/C	MA50J/C	MA45J/C
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®IIIプロセッサ		
	クロック周波数	550MHz	500MHz	450MHz
	内蔵キャッシュメモリ	32KB		
	システムバス	100MHz		
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	512KB(CPU内蔵)		
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大512MB DIMMSロット×2		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応、3Dアクセラレーション機能搭載)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェブテーブルシンセサイザー機能搭載		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ またはスーパーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB 一太郎9 & 1-2-3 2000モデル:約1,040MB (搭載するメモリの容量により異なります)		
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)		
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDS)、DFP準拠デジタル20ピン		
	シリアル	最大11,5200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
	出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)		
	通信関連			
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能		

機種名		MA55J/C	MA50J/C	MA45J/C
インタ フェース	入力関連			
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	USB小型キーボード			
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
PCIスロット[空き]		2スロット(ハーフサイズ×2) [2]		
ファイル ベイ	3.5インチベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済) [0]		
	内蔵3.5インチベイ[空き]	1スロット(ハードディスクドライブで占有済) [0]		
	5インチベイ[空き]	1スロット(CD-ROMドライブで占有済) [0]		
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
セキュリ ティ/マネジ メント機能	運用管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITool」、「pcANYWHERE32 EX」、「CyberAccess」標準添付		
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、 OFF state Alert II機能		
	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知		
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10～35℃、20～80%(但し結露しないこと)		
消費電力	本体標準構成時	約33W(最大約65W)		
	サスペンド状態時	約15W以下		
	エネルギー消費効率	R区分 0.012	R区分 0.013	R区分 0.014
外形寸法	本体	315.3(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、 315.3(H)×320(D)×155(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)		
	キーボード			
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm		
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm		
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm		
重量	本体	約6.68Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)		
	キーボード			
	USB109キーボード	約1.2Kg		
	USB小型キーボード	約1.0Kg		
	PS/2 109キーボード	約650g		



MA40H/C本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA40H/C	MA40H/C(NetPCモデル)
CPU		Intel®Celeron™プロセッサ(400MHz)	
	内蔵キャッシュメモリ	32KB	
	システムバス	66MHz	
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	128KB(CPU内蔵)	
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM	最大256MB DIMMスロット × 2	
	ビデオRAM	4MB(SDRAM)	
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	ATI Technologies社製RAGE™ XL搭載(AGP対応、アクセラレーション機能搭載)	
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大65,536色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)	
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブまたはなし	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応) × 1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応) × 1	_____
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応	約760MB (搭載するメモリの容量により異なります)
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB 一太郎9 & 1-2-3 2000モデル:約1,040MB (搭載するメモリの容量により異なります)	
	CD-ROMドライブまたはなし	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)	
インタフェース	ディスプレイ		
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDS)、DFP準拠デジタル20ピン	
	シリアル	最大11,5200bps、D-sub9ピン	
	パラレル	D-sub25ピン	
	USB	2(本体正面 × 1、本体背面 × 1)	
	サウンド関連		
	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
	出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)	
	通信関連		
LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ	_____	

機種名		MA40H/C	MA40H/C(NetPCモデル)
インタ フェース	入力関連	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
	FDコネクタ		管理者用外付けFDドライブを接続
PCIスロット[空き]		2スロット(ハーフサイズ×2) [2]	2スロット(ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(FDコネクタで占有済)) [1]
ファイル ベイ	3.5インチベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済) [0]	
	内蔵3.5インチベイ[空き]	1スロット(ハードディスクドライブで占有済) [0]	
	5インチベイ[空き]	1スロット(CD-ROMドライブで占有済) [0]	
カレンダー時計		電池によるバックアップ	
セキュリ ティ/マネジ メント機能 環境条件	運用管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「DMITool」「pcANYWHERE32 EX」「CyberAccess」標準添付	
	障害管理機能	温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視	
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知	
	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
消費電力	温湿度条件	10～35、20～80%(但し結露しないこと)	
	本体標準構成時	約27W(最大約60W)	約25W(最大約58W)
	サスペンド状態時	約20W以下	約18W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.043	R区分 0.039
外形寸法	本体	315.3(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、 315.3(H)×320(D)×155(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)	
	キーボード		
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm	
重量	本体	約6.68Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)	
	キーボード		
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	PS/2 109キーボード	約650g	



MA40H/L 本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA40H/L
CPU		Intel®Celeron™プロセッサ(400MHz)
	内蔵キャッシュメモリ	32KB
	システムバス	66MHz
メモリ	セカンドキャッシュメモリ	128KB(CPU内蔵)
	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応
	メインRAM	最大256MB DIMMSロット×2
	ビデオRAM	4MB(SDRAM)
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	ATI Technologies社製RAGE™ XL搭載(AGP対応、アクセラレーション機能搭載)
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大65,536色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備、ウェブテーブルシンセサイザー機能搭載
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約760MB 一太郎モデル:約1,080MB Office 2000モデル:約1,150MB Wordモデル:約900MB (搭載するメモリの容量により異なります)
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大32倍速(平均23倍速)
インタフェース	ディスプレイ	
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMD5)、DFP準拠デジタル20ピン
	シリアル	最大11,5200bps、D-sub9ピン
	パラレル	D-sub25ピン
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)
	サウンド関連	
	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
	出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)
	通信関連	
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ

機種名		MA40H/L
インタ フェース	入力関連	
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
	USB小型キーボード	
PCIスロット〔空き〕		2スロット(ハーフサイズ×2)〔 2 〕
ファイル ベイ	3.5インチベイ〔 空き 〕	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)〔 0 〕
	内蔵3.5インチベイ〔 空き 〕	1スロット(ハードディスクドライブで占有済)〔 0 〕
	5インチベイ〔 空き 〕	1スロット(CD-ROMドライブで占有済)〔 0 〕
カレンダー時計		電池によるバックアップ
セキュリ ティ/マネジ メント機能	運用管理機能	デスクトップ管理ソフトウェア「CyberAccess」標準添付
	障害管理機能	温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度条件	10 ~ 35 、20 ~ 80%(但し結露しないこと)
消費電力	本体標準構成時	約27W(最大約60W)
	サスペンド状態時	約20W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.043
外形寸法	本体	315.3(H)×320(D)×86(W)mm(縦置き・スタビライザ含まず)、 315.3(H)×320(D)×155(W)mm(縦置き・スタビライザ含む)
	キーボード	
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm
重量	本体	約6.68Kg(スタビライザ含まず)、約6.8Kg(スタビライザ含む)
	キーボード	
	USB109キーボード	約1.2Kg
	USB小型キーボード	約1.0Kg

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

■ FAX機能

交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM：14400/12000/9600/7200bps DPSK：4800/2400bps FSK：300bps
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS1）

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム機能

適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信： 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ： 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/ 40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/ 32000/30666/29333/28000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM： 56000/54666/54000/53333/52000/50666/50000/49333/48000/ 46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/ 38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/31200/ 30666/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200bps QAM： 9600/7200bps DPSK： 4800/2400/1200bps FSK： 1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm (出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesAT コマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU機能

適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル (10/20PPS) トーンダイヤル (DTMF)
NCU形式	AA (自動発信 / 自動着信型) MA (手動発信 / 自動着信型) MM (手動発信 / 手動着信型) AM (自動発信 / 手動着信型)
制御コマンド	HayesAT コマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド (CLASS1)



ATコマンド

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE(パソコンなどの端末機器)からのコマンドにより自動発着信を行うために米国Hayes社が開発したコマンド体系で「AT」で始まることからこのように呼ばれています。

コマンドの構成

ATコマンドセット(A/コマンドを除く)では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターン(以降CRと表記。【Enter】を指します)で終了しなければなりません。ATシーケンスは、いくつかのコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は60です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR
---	---	-------	----

メモ

DTE:パソコン(本体)を指します。

DCE:FAXモデムボードを指します。

コマンド一覧

基本ATコマンド

種 類	ATコマンド	機 能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしない状態で、応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A /	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には「AT」は付けない。また、最後の(CR)も付けない。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 P...パルスダイヤル(ダイヤル回線)。 T...トーンダイヤル(プッシュ回線)。 W...第2ダイヤルトーンを検出する(CDDX等のダイヤルトーンを検出する)。 @...5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。 ,...S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信等でダイヤルを待つ場合に使用する。 0~9、*、#...相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」等が使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。 ;...ダイヤル後コマンドモードに戻る。 !...0.5秒間、回線をオンフック(回線断)する。 S=n... & Znで登録した電話番号にダイヤルする。 L...最後にかけた番号にリダイヤルする。 ^...V.25コーリングトーンをディセーブルにする。
コマンドエコー有無の設定	E	DTE(パソコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を指定する。 E0 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す。
回線の接続 / 切断	H	H0 回線を切断(オンフック)する。 H1 回線を接続(オフフック)する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0 デフォルトスピード、コントロールF/Wバージョンの表示。 I1 ROMのチェックサムコードを表示する。 I2 ROMのチェックを実行する。 I3 I0と同じ。
モニタースピーカ 最大音量設定	L	FAXモデムボードの内蔵スピーカの音量を設定する。 L0 音量小。 L1 音量小。 L2 音量中。 L3 音量大。
モニタースピーカの動作設定	M	内部モニタースピーカのON/OFFのタイミングを設定する。 M0 スピーカを常にOFFにする。 M1 キャリアを検出するまでONにする。 M2 スピーカを常にONにする。 M3 ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。

・ 網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

・ ()は、AT&Wでバックアップ可能な項目です。

種 類	ATコマンド	機 能
自動モードの設定	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する。 N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。 N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド(+++)によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0 オンラインモードに戻る。 O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。 O3 ネゴシエーション後にオンラインモードに戻る。
パルス回線(ダイヤル回線)モードの設定	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。
リザルトコードの設定	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモードを指定する。 Q0 リザルトコードをパソコンに返す。 Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタの内容を読み出す。ATS0(CR)でレジスタの内容を読み出す。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタを設定する。 ATSr=n(CR)でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタの値を10進数で設定する。 ATS2=43(CR)でS2レジスタに43(10進数)を設定する。
トーン回線(プッシュ回線)モードの設定	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。
リザルトコードタイプの設定	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0 リザルトコードを数字表示に設定する。 V1 リザルトコードを文字表示に設定する。
接続リザルトコード拡張(エラー訂正)の設定	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 W0 接続時にDTEスピードのみを返す(例CONNECT19200)。 W1 接続時にエラー訂正プロトコル、DTEスピードの順に返す。 W2 接続時にエラー訂正プロトコル、DCEスピードの順に返す。
接続時のリザルトコードの設定	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 X0 拡張リザルトコード表示なし。ダイヤルトーン・話中音検出なし。 X1 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン・話中音検出なし。 X2 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出あり。話中音検出なし。 X3 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出なし。話中音検出あり。 X4 拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン・話中音検出あり。
ブレーク信号の動作指定	Y	ブレーク信号に関する動作を指定する。 Y0 ブレーク信号を受信しても、回線を切断しない。
モデムの初期化	Z	モデムを不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。 Z0 不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。 Z1 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する。 (プロファイル0と1は同じプロファイルです。)

・ 網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

・ ()は、AT&Wでバックアップ可能な項目です。

種 類	ATコマンド	機 能
キャリア検出信号(CD) の動作	& C	CD 信号(DCD)の動作を指定する。 & C0 CD 信号を常にONにする。 & C1 CD 信号はキャリアが検出されるとONになる。
データ端末レディ	& D	DTR 信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。 & D0 DTR 信号は無視し、常にONとして扱う。 & D1 DTR 信号がOFFになると、コマンドモードになる。 & D2 DTR 信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる。 & D3 DTR 信号がOFFになると、回線を切断し初期化される(ATZ コマンド実行状態になる)。
パラメータの初期化	& F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。
ガードトーンの設定	& G	モデムのガードトーンの有無を指定する。 & G0 ガードトーンなし。 & G1 550Hz ガードトーンあり。 & G2 1800Hz ガードトーンあり。
DTE のフロー制御	& K	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS, XON/XOFF)を指定する。 & K0 フロー制御しない。 & K3 RTS/CTS フロー制御をする。 & K4 XON/XOFF フロー制御をする。
通信モードの設定	& M	通信モードを指定する(& Q の一部コマンドと同様)。 & M0 ダイレクト非同期モードで接続する。
ダイヤルパルススピードの 設定	& P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。 & P1 ダイヤルパルスを10PPSにする。 & P2 ダイヤルパルスを20PPSにする。
通信モードの設定	& Q	通信モードを指定する。 & Q0 ダイレクト非同期モードで接続する。 & Q5 エラー訂正プロトコルで接続する。 & Q6 ダイレクト非同期モードで接続する。 & Q8 MNP エラー訂正プロトコルで接続する。 & Q9 V.42またはMNPエラー訂正プロトコルで接続する。
データセットレディ(DSR) の制御	& S	DSR 信号の動作を指定する。 & S0 DSR 信号は常にON。 & S1 DSR 信号が回線接続中にONになる。
モデムの設定状況の表示	& V	コマンドおよびレジスタの設定状況を表示する。
パラメータの書き込み	& W	現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。 & W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。 (この値は、電源を入れたとき、またはATZn コマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。)
プロファイルの設定	& Y	電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。 & Y0 プロファイル0を指定する。
電話番号の保存	& Z	ATDS=(n) コマンドでダイヤルする場合の電話番号を指定する。 & Zn=XXXXX n=0 ~ 3, XXXXX は電話番号(40桁以下) (例) AT&Z2=03-1234-5678 ダイヤル番号バッファ2に指定の番号を保存する。 (電話番号として使用できるのは、ATD コマンドの電話番号のうち「;」「S=n」以外のコマンド。)

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

種 類	ATコマンド	機 能
データ圧縮の指定	%C	データ圧縮の方法を指定する。 %C0 データ圧縮をしない。 %C1 V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う。
リトレーニング等の自動再実行	%E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)、回線速度を変更するかどうかの指定をする。 %E0 リトレーニングを自動で再実行しない。 %E1 %E0と同じ。 %E2 リトレーニングを自動で再実行する。 (データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではありません。)
最大ブロックサイズの設定	¥A	MNPで接続する時のブロックサイズを指定する。 ¥A0 最大ブロックサイズ64。 ¥A1 最大ブロックサイズ128。 ¥A2 最大ブロックサイズ192。 ¥A3 最大ブロックサイズ256。
ブレイク信号を送信	¥B	n × 100msのブレイク信号を送信する。n=1~9
ブレイク信号の動作	¥K	ブレイク信号を受けたときの動作を指定する。 ・オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時にパソコンからブレイク信号を受けた。 ¥K0 コマンドモードになる。相手モデムにはブレイクを送らない。 ¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K2 ¥K0と同じ。 ¥K3 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K4 ¥K0と同じ。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ・オンラインコマンドモード時にパソコンから¥Bコマンドによるブレイクを受けた。 ¥K0 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K1 データバッファを空にして、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K2 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K3 バッファのデータより優先して相手モデムにブレイクを送る。 ¥K4 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、相手モデムにブレイクを送る。 ・オンラインモード(V.42/ノーマルモード)時に相手モデムからブレイクを受けた。 ¥K0 データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る。 ¥K1 データバッファを空にして、パソコンにブレイクを送る。 ¥K2 バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る。 ¥K3 バッファのデータより優先してパソコンにブレイクを送る。 ¥K4 バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る。 ¥K5 バッファのデータを送った後で、パソコンにブレイクを送る。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

種 類	ATコマンド	機 能
通信モードの設定	¥N	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。 ¥N0 ノーマルモードで通信する。V.42,MNPは使用しない。 ¥N1 ダイレクトモードで通信する。 ¥N2 MNPモードで接続する。相手モデムがMNPモードでない場合は接続しない。 ¥N3 V.42,MNPモードで接続する。相手モデムがV.42,MNPでない場合は、ノーマルモードで接続する。 ¥N4 V.42モードで接続できる。相手モデムがV.42でない場合は接続しない。 ¥N5 ¥N3と同じ。 ¥N7 ¥N3と同じ。 (V.42,MNPの場合は、V.42→MNPの順に相手モデムとの接続を試す。) &M、&Qコマンドも参照。
DTEのフロー制御	¥Q	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS,XON/XOFF)を指定する。 ¥Q0 フロー制御をしない。 ¥Q1 XON/XOFFフロー制御をする。 ¥Q3 RTS/CTSフロー制御をする。 (&Kコマンドを参照。)
拡張リザルトコードの指定	¥V	拡張リザルトコードを指定する。 ¥V0 拡張リザルトコードを使用しない。 ¥V1 拡張コードにエラー訂正の表示をする。 ¥V2 ¥V1と同じ。
V.90のイネーブル/ディセーブルと、下り通信速度の設定	-V90=	-V90=0 V.90のディセーブル -V90=1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。 -V90=2 通信速度を28000bpsに設定する。 -V90=3 通信速度を29333bpsに設定する。 -V90=4 通信速度を30666bpsに設定する。 -V90=5 通信速度を32000bpsに設定する。 -V90=6 通信速度を33333bpsに設定する。 -V90=7 通信速度を34666bpsに設定する。 -V90=8 通信速度を36000bpsに設定する。 -V90=9 通信速度を37333bpsに設定する。 -V90=10 通信速度を38666bpsに設定する。 -V90=11 通信速度を40000bpsに設定する。 -V90=12 通信速度を41333bpsに設定する。 -V90=13 通信速度を42666bpsに設定する。 -V90=14 通信速度を44000bpsに設定する。 -V90=15 通信速度を45333bpsに設定する。 -V90=16 通信速度を46666bpsに設定する。 -V90=17 通信速度を48000bpsに設定する。 -V90=18 通信速度を49333bpsに設定する。 -V90=19 通信速度を50666bpsに設定する。 -V90=20 通信速度を52000bpsに設定する。 -V90=21 通信速度を53333bpsに設定する。 -V90=22 通信速度を54666bpsに設定する。 -V90=23 通信速度を56000bpsに設定する。 -V90? 現在の設定値を表示する。 -V90=? 設定値の範囲(0~23)を表示する。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

種 類	ATコマンド	機 能
エスケープ	+++	オンラインモードの時、パソコンから前後1秒間(S12レジスタで設定可能)の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。 「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないで(CR)等は入力しないこと。



チェック!!

- ・相手FAXが音声応答FAXの場合、接続できないことがあります。その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。

コマンド構文: ATX0

- ・外付け電話機使用中に以下に示すATコマンドを実行すると回線が切り替わります。

コマンド構文: ATD、ATH1、ATA

リザルトコード

数字	文 字	内 容
0	OK	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	接続
2	RING	リングング検出
3	NO CARRIER	キャリアおよびリングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文違いおよび存在しないコマンド
5	CONNECT 1200 EC	1200bpsのポートまたはモデム速度で接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	BUSYトーン検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
10	CONNECT 2400 EC	2400bpsで接続
11	CONNECT 4800 EC	4800bpsで接続
12	CONNECT 9600 EC	9600bpsで接続
13	CONNECT 14400 EC	14400bpsで接続
14	CONNECT 19200 EC	19200bpsで接続
24	CONNECT 7200 EC	7200bpsで接続
25	CONNECT 12000 EC	12000bpsで接続
86	CONNECT 16800 EC	16800bpsで接続
40	CONNECT 300 EC	300bpsで接続
55	CONNECT 21600 EC	21600bpsで接続
56	CONNECT 24000 EC	24000bpsで接続
57	CONNECT 26400 EC	26400bpsで接続
58	CONNECT 28800 EC	28800bpsで接続
59	CONNECT 31200 EC	31200bpsで接続
60	CONNECT 33600 EC	33600bpsで接続
28	CONNECT 38400 EC	38400bpsで接続
18	CONNECT 57600 EC	57600bpsで接続
70	CONNECT 32000 EC	32000bps(K56flexまたはV.90)で接続
71	CONNECT 34000 EC	34000bps(K56flex)で接続
72	CONNECT 36000 EC	36000bps(K56flexまたはV.90)で接続
73	CONNECT 38000 EC	38000bps(K56flex)で接続
74	CONNECT 40000 EC	40000bps(K56flexまたはV.90)で接続
75	CONNECT 42000 EC	42000bps(K56flex)で接続
76	CONNECT 44000 EC	44000bps(K56flexまたはV.90)で接続
77	CONNECT 46000 EC	46000bps(K56flex)で接続
78	CONNECT 48000 EC	48000bps(K56flexまたはV.90)で接続
79	CONNECT 50000 EC	50000bps(K56flex)で接続
80	CONNECT 52000 EC	52000bps(K56flexまたはV.90)で接続
81	CONNECT 54000 EC	54000bps(K56flex)で接続
82	CONNECT 56000 EC	56000bps(K56flex)で接続
87	CONNECT 115200 EC	115200bpsで接続
88	DELAYED	接続は延期された
89	BLACKLISTED	再ダイヤル規制によりダイヤルを実行できない
100	CONNECT 28000 EC	28000bps(V.90)で接続
101	CONNECT 29333 EC	29333bps(V.90)で接続
102	CONNECT 30666 EC	30666bps(V.90)で接続
103	CONNECT 33333 EC	33333bps(V.90)で接続
104	CONNECT 34666 EC	34666bps(V.90)で接続
105	CONNECT 37333 EC	37333bps(V.90)で接続
106	CONNECT 38666 EC	38666bps(V.90)で接続
107	CONNECT 41333 EC	41333bps(V.90)で接続
108	CONNECT 42666 EC	42666bps(V.90)で接続

数字	文 字	内 容
109	CONNECT 45333 EC	45333bps(V.90)で接続
110	CONNECT 46666 EC	46666bps(V.90)で接続
111	CONNECT 49333 EC	49333bps(V.90)で接続
112	CONNECT 50666 EC	50666bps(V.90)で接続
113	CONNECT 53333 EC	53333bps(V.90)で接続
114	CONNECT 54666 EC	54666bps(V.90)で接続



チェック!!

ECは拡張リザルトコードオプションが有効のときに出現します。ECは使用されるエラー制御方法によって、以下のシンボルのいずれかに置き換わります。

V.42bis : V.42エラー訂正とV.42bisデータ圧縮

V.42 : V.42エラー訂正のみ

MNP5 : MNP4エラー訂正とMNP5データ圧縮

MNP4 : MNP4エラー訂正のみ

NoEC : エラー訂正なし

Sレジスタ

Sレジスタ	範 囲	単 位	初期値	機 能
S0	0 ~ 15	回	0	自動着信のリングの回数
S1	0 ~ 255	回	0	受信しているリングの回数
S2	0 ~ 255	ASCII	43	エスケープ・シーケンスのコード
S3	0 ~ 127	ASCII	13	キャリッジリターン・コード
S4	0 ~ 127	ASCII	10	ラインフィード・コード
S5	0 ~ 32, 127	ASCII	8	バックスペース・コード
S6	4 ~ 255	秒	4	ダイヤルトーン検出時間
S7	35 ~ 59	秒	50	相手モデムと接続するまでの許容時間
S8	2 ~ 65	秒	2	ダイヤル時の「 ル 」によるポーズ時間
S10	1 ~ 255	1/10秒	20	キャリア・ロス検出時間
S11	70 ~ 150	1ミリ秒	95	PBトーン・スピード
S12	0 ~ 255	0.02秒	50	エスケープシーケンスのガードタイム
S28	0 ~ 255	-	1	V.34のイネーブル/ディセーブル S28=0 V.34のディセーブル S28=1 ~ 255 V.34のイネーブル
S35	0 ~ 1	-	0	データ・コーリング・トーン データ・モデム接続のコーリング・トーン (1300Hz0.5秒オン2秒オフ)のイネーブル/ディセーブル S35=0 ディセーブル S35=1 イネーブル
S37	(ビットマップ)	-	0	V.34接続スピード S37=0 最大モデムスピード S37=1 予約済み S37=2 1200/75bit/s S37=3 300bit/s S37=4 予約済み S37=5 1200bit/s S37=6 2400bit/s S37=7 4800bit/s S37=8 7200bit/s S37=9 9600bit/s S37=10 12000bit/s S37=11 14400bit/s S37=12 16800bit/s S37=13 19200bit/s S37=14 21600bit/s S37=15 24000bit/s S37=16 26400bit/s S37=17 28800bit/s S37=18 31200bit/s S37=19 33600bit/s

Sレジスタ	範 囲	単 位	初期値	機 能
S38	0 ~ 14	-	0	K56flexのイネーブル/ディセーブルと下り通信速度 S38=0 K56flexディセーブル S38=1 最大モデムスピード S38=2 32000bit/s S38=3 34000bit/s S38=4 36000bit/s S38=5 38000bit/s S38=6 40000bit/s S38=7 42000bit/s S38=8 44000bit/s S38=9 46000bit/s S38=10 48000bit/s S38=11 50000bit/s S38=12 52000bit/s S38=13 54000bit/s S38=14 56000bit/s
S89	0, 5 ~ 255	秒	10	スリープモードタイマー スタンバイモードに入るまでの非活動時間(DTE からデータが来ないこと、かつ、リング信号が検出されないこと)を規定します。 S89=0 スタンバイモードには入りません。 S89=5 ~ 255 5 ~ 255秒間の非活動が検出された後で、スタンバイモードに入ります。



チェック!!

- ・S0レジスタを0以外の値でバックアップすると、通信用アプリケーションの起動状態によらずに設定された呼び出し回数で着信します。
- ・Microsoft Windows 98のハイパーターミナルなど、データ通信ソフトウェアによってはK56flexで通信できない場合があります。その場合は、以下のコマンドを追加することによりK56flexでの通信が可能になります。
コマンド構文:ATS38=1

割り込みレベル一覧

工場出荷時の割り込みレベルは、次の通りです。



■ MA55J/M、MA50J/M、MA45J/M

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	(空き)
IRQ04	シリアルポートA
IRQ05	(空き)
IRQ06	フロッピーディスクドライブ
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USBおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX
IRQ11	グラフィック
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートAをロックしてください。

参照 「PART2 システム設定」セキュリティの設定」の「I/Oロック」(P.119)



■ MA55J/S、MA50J/S、MA45J/S

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	(空き)
IRQ04	シリアルポートA
IRQ05	(空き)
IRQ06	フロッピーディスクドライブ
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USBおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX
IRQ11	グラフィック
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートAをロックしてください。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」セキュリティの設定」の「I/Oロック」(P.119)



■ MA40H/S

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	(空き)
IRQ04	シリアルポートA
IRQ05	(空き)
IRQ06	フロッピーディスクドライブ
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USBおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX
IRQ11	グラフィック
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートAをロックしてください。



『本機をお使いの方へ』



■ MA55J/C、MA50J/C、MA45J/C

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	(空き)
IRQ04	シリアルポートA
IRQ05	(空き)
IRQ06	フロッピーディスクドライブ
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USBおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LAN
IRQ11	グラフィック
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートAをロックしてください。



「PART2 システム設定」セキュリティの設定」の「I/Oロック」(P.119)



■ MA40H/C、MA40H/L

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	(空き)
IRQ04	シリアルポートA
IRQ05	(空き)
IRQ06	フロッピーディスクドライブまたは(空き)
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USBおよびサウンド(シェア)
IRQ10	LANまたはFAX
IRQ11	グラフィック
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、シリアルポートAをロックしてください。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」セキュリティの設定」の「I/Oロック」(P.119)



DMAチャネルの割り当て

工場出荷時のDMAチャネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ幅	システムリソース
0	8または16ビット	(空き)
1	8または16ビット	(空き)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空き)
4		予約(カスケードチャネル)
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

スーパーディスク搭載モデルの場合は、「(空き)」になります。

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠ 注 意



感電注意

- お手入れの前には、本機の電源をOFFにして電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
感電の原因になります。



発火注意

- 電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。
電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起り、火災の原因となります。

本体

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

本体の内部

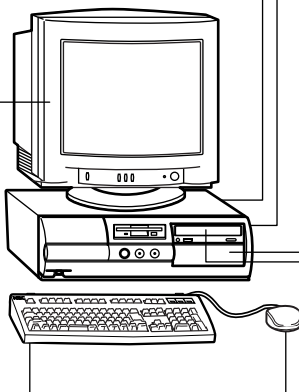
長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、NECに相談してください。
NECのお問い合わせ先 → 『メンテナンス&サポートのご案内』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。



フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブ、CD-RWドライブ、CD-ROMドライブ
クリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。→「スーパーディスクドライブのクリーニング」(P.164)

キーボード

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECに相談してください。
NECのお問い合わせ先 → 『メンテナンス&サポートのご案内』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。→「マウスのクリーニング」(次ページ)



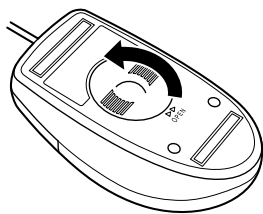
チェック!!

- ・水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

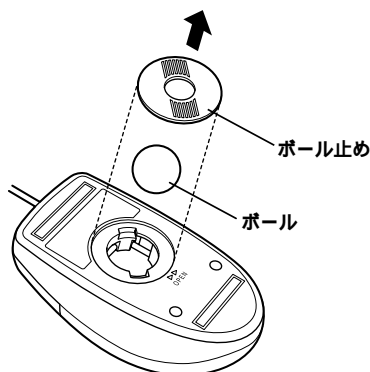
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

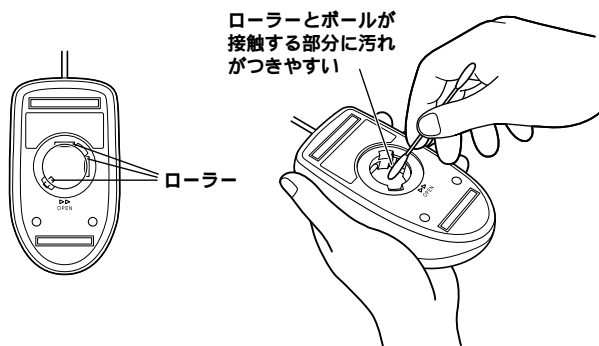
- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる
- 7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす
汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります
(このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けないでください)



- 8 ボールをマウスに戻す
- 9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定

**チェック!!**

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

スーパーディスクドライブのクリーニング

スーパーディスクドライブでフロッピーディスクを使用していると、ヘッドが汚れ、読み書き時にエラーが発生する場合があります。万一、ご使用中にエラーが発生した場合には、スーパーディスクドライブ専用のクリーニングキットを使用してください。

推奨クリーニングキット

イメーション株式会社製:LS-120HCL

フロッピーディスクドライブ用のクリーニングディスクなどを使用すると、ヘッドが摩耗し、障害を招く場合がありますのでご注意ください。



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

第二版 1999年7月

NEC

P



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙(古紙率:表紙50%、本文100%)を使用しています。